

2003/08/16

宇宙堂第三回公演

『りぼん』

作
渡辺えり

登場人物

上田すみれ	強 (ギター)	牧野	少年たち
榎本百合子	田川撫子	関口誠	掃除婦たち
岡島桜子	橘隼人	神田守	女中たち
芙蓉	時夫	上川正也	米兵たち
あざみ	へプバーン	大林潤	学生たち
修	浜野リボン	真下貢	
直助	馬場幸子	係員	
雪夫	向田春子	出口良子	
博	夏江	ジロー	
しのぶ／しのべ	花江	医者	
薫 (ピアノ)	黒沢	吉岡先生	
みどり (バンドネオン)	梅	少女たち	

修・牧野・関口誠・神田守・ジロー この五役は同じ役者が演じる

夏江・あざみは同じ役者が演じる

春子と芙蓉は同じ役者が演じる

へプバーンと花絵は同じ役者が演じる

天井に球形の月がぶら下がっている。
高窓から差し込む光がそれを照らしている。

中央の丸い地面は球体の先を切り取ったように盛り上がっている。すると、地面が心臓のように脈打ち芽を出し始める。それは枝になり、木々になり、十数体の人の大きさの海棠の古木となった。

地面から制服の少女少年たちが数名這い出してくる。少女たち、楽器の置かれているスペースに移動すると、演奏を始める。その途端、海棠の五弁の花びらが一斉に散り始める。

天井からも降り始める。人の大きさの木々たちが枝を揺らしている。

少女たち歌う。

「恋の歌」

嗚呼歌え 恋歌を 明日は嬉しいことばかり

それなら昨日の憂鬱は昨日の川に捨てましょう

明日はいくつの朝が来て　いくつの夜が終わるでしょう

戦ばかりが地を荒らし　人の命を枯らしたけれど

歌は残る　恋は残る　積もる心は乾かない

嗚呼歌え　恋歌を　明日は嬉しいことばかり

嗚呼歌え　恋歌を　明日は嬉しいことばかり

それなら昨日の憂鬱は昨日の川に捨てましょう

幾たびか街は焼かれ消え　愛しい人も焼かれ消え

花も子供も犬も溶け　りぼんも溶けた昼もあるけど

歌は残る　恋は残る　積もる心は乾かない

嗚呼歌え　恋歌を　明日は嬉しいことばかり

歌い終わると少女少年たちが喋りながら舞台に移動してくる。其の中
のバンドネオンを演奏していた少女、みどり、とピアノを演奏していた少年、薫、
ギターの、強、は残ってまだ演奏している。

汽笛の音

少年少女ら舞台上でフォークダンスを踊り始める。そして笑いながら客席後方に去って行く。

中学校教師 橘潤一、客席から息を切らせて走ってくる。

舞台中央まで来ると、悲痛な顔で息を整え、救心丸を飲んだりしている。

と、修学旅行の生徒たち、余裕の笑顔で、軽やかに走ってくる。なぜか、その手に、バケツやら、モップやら、ほうき、はたきなどの掃除用具を持っていて、リュックを背負っている者もいる。女生徒達は手を繋いでいる。潤一、生徒たちに気が付くと、随分前から待っていたような、余裕のポーズを取り、手帳を広げ、俳句を作っている。

潤一

懐かしき 秋風潮風 走る子等

雪夫

秋晴れの 陸奥は今 遠く在り んんん
早いなあ、先生は。

潤一

当たり前です。陸上部の顧問何年やってると思ってるんだ。

しかし、潤一、大いに汗をかいている。生徒達は軽やかに、深呼吸をしたり、腕立て伏せをしたりしている。女生徒達、車座になつて笑う。

潤一

笑うな！

一同、シーンとなる。

潤一

女は笑っちゃいかん。何度言ったら判るんだ！

すみれ

でも、修君たちが変な顔するから。

潤一

だったら、歯を見せずに笑え。歯を見せちゃいかん。

一同、歯を見せずに笑ってみる。やってみると、その互いの顔がまたおかしくて笑ってしまう。

潤一

笑いたくなったら、悲しい事を思い出せ。すみれ、お前の弟が……。

と、潤一、半年前に誘拐されたまま未だ行方不明の弟の事をパン
トマイムで思い出させようとする。
すみれ、ワツと泣く。

芙蓉

先生、ひどい。すみれちゃん、やつと立ち直ったばかりなのに。

潤一

馬鹿。お前ら、犯されてもいいのか！ 強姦されてもいいんだな？

女生徒達

嫌です！

潤一

だったら、笑うな！

直助

先生、本当にアメリカ人は、女が歯を見せただけで強姦するんですか？

潤一

そうだ。女が歯を見せて笑う、ということは、アメリカ人の男に対して

だな、「私はあなたにすべてを捧げます」という意味になってしまうのだ。

「私はあなたを求めています」という意味になってしまうのだ。とにかく
くきりりと歯を食いしばり、眉をこう、額によせる。

博

本当ですかね。僕は映画が好きで、何本もアメリカ映画を観ましたが、
ジームスディーンもグレゴリーペックも、そんなことはしていません
でした。

潤一 馬鹿。その映画に日本人は出演していたか？

博 いいえ。

潤一 アメリカ人はな、日本人は笑わないものだと思ってる。これは恐ろしいことなんだが、アメリカ人には、日本人の顔はみんな、草鞋の裏に見えるらしい。つまり、奴らには我々の顔の凹凸が見えないらしい。紙をこう、くちやくちやに丸めて広げたような感じに見えるらしいんだね。紙だと思っていたものに、急に穴が開いてみる。どうぞ、お入りください。だろ？

博 んんん。

潤一 なんだ、まだ、納得できんのか？

と修、突然、失神する。一同、啞然とする。

潤一 またか。雪夫、持ってきたな。

雪夫 はい。あつ。

潤一 なんだ。

雪夫 置いてきてしまいました。甲板の上に。さっきフォークダンスやった時、

つい邪魔になつて。

潤一 仕方ないな。しのぶ！

しのぶ 嫌です。

潤一 しょうがないだろ。お前だけなんだ、自由自在にへをこけるのは。特技をいかせ。

しのぶ、みんなに励まされて、決意する。一同輪になって後ろ向きに立つ。しのぶ、修の顔の上でかいオナラをタレル。一同、臭いを我慢する。修起き上がる。しのぶ級友に汗を拭いてもらう。

潤一 お前、もう、氷川丸に帰りなさい。雪夫が、クサヤ忘れてきたから、今度倒れたら誰も助けられんぞ。いくら、しのぶーだったって、そんな、ぶっ！ ぶっ！ は出んぞ。

修 限界まで我慢したんですが、ショックが大きすぎて。

潤一 黒人だろ？ そら驚くさ。生まれて初めて見た黒人だ。だが、驚いちゃいかん。なめられる。この横浜じゃ、日常茶飯事の光景なんだ。いちいち外国人に驚いてたら、「田舎者」と一目でわかる。何のために体育館で

百合子

「アंकルトム」を見せたんだ。なめられちゃいかん。でも、横浜も東京も、もう二度と来られないかもしれません。今のうちに何でもじっくり観ておきたいのです。驚かないためには、観ないようにするしかないじゃないですか。そんなの無理です。外国人も近寄って触ってみたい。オリンピック選手団のサインも欲しいです。

潤一
馬鹿！ 今回の修学旅行のテーマはただ一つ。生きて「山形」に帰ると。

と、山形をやけに小さく言う。

桜子

どうして、山形の所をやけに小さく……。

潤一

馬鹿！ 我々が山形の間人だということをもし誰かが小耳に挟んで密告したらどうなる？

一同

〈小声で〉どうなるんです？

潤一

想像を絶することになる。

修

想像を絶することってなんですか？

潤一

馬鹿！ それが判ったら、想像を絶することにはならんじゃないか。想

一同

像を絶することなんだから、想像を絶するんだ。判ったか？
判りました。

修、また、失神しそうになる。

潤一

しのぶ！

しのぶ

もう、出ません。

潤一

弱ったな。

博

猫の死骸なら、直助君が持ってます。

直助、狼狽する。

雪夫

それ、臭いの？

博

臭い。

雪夫

クサヤよりも？

博

同じくらい。

雪夫

それ、貸してくれ、僕が保管しとく。

直助

嫌です。

潤一

お前、殺したのか？ 猫を殺したのか？

と、無理に優しく尋ねる。

直助

違います。これは、看病の甲斐なく、おととい死んでしまった、うちの飼った猫、ヘプバーンの亡骸です。僕より先に家にいたヘプバーン。一人っ子の僕にとってはまるで姉のような猫、ヘプバーン。大事な姉をクサヤ代わりに使えるもんか！

潤一

じゃあ、この辺に、穴掘って埋めろ！

直助

嫌です。毎日、このリュックに入れて、ともに通学していたんです。僕らはいつまでも一緒です。

芙蓉

直助君、心よ心。心はいつも一緒でしょ？ 死体はいつか、腐って溶ける。そう、肉体には限りがある。けれど精神は永遠でしょう？

直助

永遠なんか欲しくない。僕はヘプバーンが好きただけだ。ここに居るヘプバーンが。死んでもヘプバーンが好きだ。腐っても、溶けても、ヘプバーンが好きだ。心が好きなんじゃない。今、ここに居る、ヘプバーン

博

が好きなんだ。

肉体も精神も、結局同じなんじゃないかな。この世のモノにはすべて限りがある。この星の命さえ永遠じゃない。ただ時間だけが過ぎていく。

限りある未来に向けて、ただ時間だけが。

……。

ええっと、博、何の話、してたっけね。

……。

とにかく、掃除しろ。

なして、横浜に来てまで、掃除さんなねんだべ。

馬鹿！　へと雪夫の口を押さえる。方言を使うな。あれほど言ったら？

口を酸っぱくして言ったら？　我々が、山形から来たと判ったら……。

想像を絶することになる。

んでも、東京弁だど、いちいち考えて喋らんねながら、イライラする。

頭んがで、いちいち翻訳してから喋るがら、喋るの遅くなる。

アザミちゃんなんか、昨日から一言も喋ってねべ。

……。

何のために、体育館で小津安二郎の「東京物語」を観せたと思ってる？

一同

潤一

一同

潤一

雪夫

潤一

一同

すみれ

桜子

百合子

アザミ

潤一

練習しろ練習。喋れるようになるまで、百回でも二百回でも観ろ！ 原節子みだいに喋れ！

アザミ

……はずかしくて、駄目だ……思ったごどは東京弁では喋らんね。東京弁で喋るくらいなら、何も喋らね方がまずだ。

潤一

そんなことだから東北人は馬鹿にされるんだ。なんだ、東京弁くらい。

英語やフランス語じゃない。ただの日本語だ。山形と同じ、日本人の言葉だぞ。覚悟を決めて、どんとブツカレ！

と、「山形第六中学校」の旗を持った、教師田川撫子が息を切らせてやってくる。

田川

橘先生。スママセン。私、道に迷ったみたいで。

潤一

違います。まいたんです。

田川

え？

潤一

あんた、訛ってるから。

田川

は？

潤一

それに、そんな旗持ってるし。

田川

これは、みんなか迷子にならないように……。いえ、それで私が迷子になったんでは何の意味もないということになってしまいかもしれませんが。

潤一

全然通じなかったってさ。あんたの英語。

田川

は？

潤一

あんたに習った英語。あんた、英語まで訛ってたんだね。あんた、今までアメリカ人と会話したことあるの？ 英会話したことある訳？

田川

ありません。さっき、そこで道を尋ねられた時は心臓が止まるかと。黒いんですね。真つ黒でした。ほんとに良かった。本物が見られて。

潤一

通じたの？ あんたの英語。

田川

それどころじゃありませんよ。見えました。あたし、ただ、見えました。

怒ってました。やっぱり怒るんですね。あきれてました。やっぱりあきらめるんですね。手をこんな風にしてみました。良かった。本物が見られて。

潤一

早く、掃除しろ。

一同

はい。

田川

ゲート座跡地ですね。来たかったんです。ここ。

芙蓉

劇場だったんですね。

田川

そうです。シエークスピアを上演してたんです。建てたのはオランダ人。設計はフランス人。関東大震災で全壊しました。ほら、赤レンガの破片が残ってます。この辺りの西洋建築の建物は全壊ね。残ってるのは赤レンガ倉庫かな。一号館は半分だけ残ったそうだけど。その後の大空襲でも残ったんだから、随分しつかりしてるのね。

博

こんな何もないところをどうして見学しなくちゃいけないんです？ 横浜は今日一日だけなのに。

田川

考えるためです。考える知恵を養うためです。今はない。けれど、かつてあった。ということが大事です。想像してみてください。ここに建っていた劇場を。ペリーが黒船でやってきてから、ここは外国人達の社交場でした。外国人達にとつて、ここは唯一母国の演劇を楽しめる場所だった。それを観る機会に恵まれた横浜の女学生達は、どんなに驚いたことでしょうか？ 外国の演劇にあこがれて、日本で初めて翻訳劇を上演した、当時の役者たちや、演出家たちの思いや舞台の状況を想像してみてください。舞台の照明や、バルコニーを。大道具や小道具、衣装。鬘をかぶった役者たち。

雪夫

無理ですよ。僕ら、舞台なんて観たことないもの。それは、想像を絶す

ることです。

田川 県民会館で観たでしょう？ 劇団仲間の「森は生きている」東京芸術劇場の「蟹工船」も。

潤一 あ、うちのクラス、行っていないなあ。私が説教してて。

田川 二回とも？

潤一 うん。そんなときしかないから。時間取れるの。

雪夫 グラウンド走ってました。それから、掃除してました。

潤一 良いんだよ。演劇なんか。体を鍛えたほうが、将来の役に立つんだから。

芙蓉 アザミちゃん、おめ、観に行っただべ？酒田^{さがた}まで。

アザミ なんだ、行った。青年劇場の「真夏の夜の夢」おもしろかった。今年旗上げした新しい劇団だ、団員も募集しっただけ。

芙蓉 受げんの？

アザミ まさがあ……河原こじきのマネだけはすんなて父ちゃんから言わつてるもの。

百合子 オレ、受げる。

二人 あ？

百合子 オレ、募集要項貰てきた。

アザミ ユリちゃんも来ったっけの？

百合子 んだ。

アザミ しゃねがったあ。

百合子 フーちゃんも高校、芸術クラスあつどご受けるんだべ？

芙蓉 そのつもりだ。

アザミ フーちゃん絵うまいがら、画家になるのが？

芙蓉 彫塑だ彫塑。ロダンだ、ロダン。

百合子 ロダンってなに？

アザミ シャネの？「考える人」だべした。

芙蓉 オレも「考える人」が一番好きだ。明日上野美術館さんぐの一番楽しみなんだ。

百合子 何言てつかさっぱりわがんね。

芙蓉 ユリちゃんも女優になっただいなら、美術も勉強しろ！舞台女優は頭良くねどならんねんだぞ。

百合子 なして？

芙蓉 バガだと、台詞覚えらんねべ。

百合子 台詞ってなに？

芙蓉 バガ！戯曲の中の言葉だべ。

百合子 戯曲でなに？

アザミ バガ！台本だべよ。

百合子 あ？

芙蓉 劇作家が台本を書いて、その台本さ書いてある言葉を俳優が喋るんだべ。

百合子 しやねがった！オレ、その場で俳優が思いついたことをてきとうに喋ってるんだと思っただ。

アザミ んだら、シェークスピアて誰だど思っただの？

百合子 印刷会社の名前だと思っただ。

二人 バガ！

田川 百合子さん、先生の授業中、あなたはほんとに夢の中にいらしたんですね。

潤一 お前は母ちゃんの店ついで美容師にならんかね！

百合子 わがてんのが！

潤一 やんだ！手荒れっから！

（芙蓉に）お前は女ばかりの長女だから、ムコ養子もらって百姓する！

芙蓉

やんだ！ロダンになる！

潤一

お前は・・・

アザミ

オレはまだ何も決めでね！何も言てねぞ！

潤一

とにかく、これからは女も手に職を持たねどダメだ！男にすがって受身で生きて行くような女は二十一世紀では生きられない。んだべ田川先生、あんたいつも言てつべ。

演劇なんて雲をつかむようなもんだべ。人は人の役に立つことばさんなねんだ。女優なて、つけもの石にもならね！彫塑も小さければまだつけもの石ぐらいにはなるが、ロダンの考える人はつけもの石には大きすぎて何の役にも立たねごどは一緒だ！

田川

じゃあ、先生はどうしてここに？

潤一

……どうしてだろう？ あんたをまいてるうちに、迷ったのかなあ……。

直助

なんだか、霧が濃くなってきた。

桜子

先生、もう帰りませんか？

どこからか猫の鳴き声をする。

博

限りある未来に思いをはせる時、どうしても絶望という言葉が襟首から、水のように滴ってくる。僕らの命に比べれば永遠のように長い宇宙にも限りがある。どうして僕は生まれてきたんだろう？

桜子

未来は遠いのに、私たちはこれから大人になるのに。そんなことは経験を通して悟っていくことでしょうか？ ねえ、田川先生。

田川

ここにある見えない劇場のせいね。見えない劇場が博君をそんな気持ちにさせている。

桜子

どういうことですか？

田川

限りあるものを永遠に変える。そんな作業をする場所だから。博君の憂鬱を劇場が耳を澄ませて聴いている。

霧の中、猫を抱いた少年が立っている。笑っている。

すみれ

時夫……。時夫ね。

少年はすみれの誘拐された弟、時夫であるが、すみれ、どうしても動くことができない。猫、悲しく鳴いている。

直助

へプバーン。

しかし、直助も動けない。

音楽。時夫歌う。

時夫

たそがれに 紫の雲 走っていたら 海が見えた

汽笛が聞こえる ここはどこ 会いたい人は どこにいる

母さん 父さん お姉さん 会いたい人は どこにいる

赤いレンガの窓の中 月の光が眩しくて何も見えない

いつの間にか、猫のへプバーンが、人の姿に変わっている。

へプバーン歌う

へプバーン

会いたいときには 毛布を抱いて 短い毛足のぬくもりを

二人

忘れないで 忘れないで 泣かないで 泣かないで

へプバーン

会いたいときには 陽だまりに そっとほっぺた押し付けて

二人
へプバーン
忘れないで 忘れないで 泣かないで 泣かないで
風の匂いに かげろうの先に 見つけて欲しい 私の影

直助
すみれ
霧の中に 声が聞こえる 抱きしめたいのに 指すり抜ける
ここはどこ その声の先に 何があるのか
その世界に 行けるのだろうか

一同
花は散る 散る 花は散る 時は過ぎ 新しい花が
星の命の果てるまで 繰り返し 咲き乱れ散る

潤一
田川
どうしたんだ一体。子供たちは何を見ているんだ？
死者が息を吹きかける。ここがゲート座跡地なら、美しいものを見ていてほしいけど。

生徒たち霧の中を凝視している

猫の鳴き声 桜子その声を追いかける

桜子 これ何？小さい十字架。ここにも。

芙蓉 お墓よ。ここ。小さい白い十字架が、あそこにもここにも。

潤一 気づかなかったな。この幅からすると、子供の墓か…。

桜子 田川先生、これ、どういうことですか？ここはゲート座跡地ではないんですか？

田川 橘先生、地図を見せて下さい。

潤一 それが、さっきの雨で滲んでしまつて。

田川 ^橘の地図を開いてVまあ、地図の中にもう一つの地図があるよう…。

雪夫 根岸の外人墓地じゃないですか？フェンスもないから、この辺りはアメ

リカ軍に接収されていないようです。

修 接収つて？

潤一 お前は、旅のしおりを読んでないのか？

しのぶ アメリカ軍が強制的に使用している区域のことです。横浜の四十パーセントは接収されています。そこは、一般市民は立ち入り禁止で、フェンスに囲まれているのです。

一同 へえ・・・

潤一

馬鹿者！誰も読んでないんじゃないか！社会科の専門でもないのに、黒船来航から今日までの横浜の歴史を、三日も徹夜して読み漁り、それからまた、二晩徹夜して書いた、私の血と汗の結晶とも言える、この旅のしおりを、お前らは。

田川

まあまあ、みんなまだ子供なんですから。遊びたいのは当然です。修学旅行なんですから。実際に、目で見て、体験して、この手で触って学習する。机の上だけでギューギュー詰め込んでも、ボロボロこぼれて、塵になるだけです。

潤一

あんた、私のこの旅のしおりが、ただの塵だというんですか？

田川

塵にしては重過ぎます。こんな分厚い旅のしおり、初めて見ました。そして、解説の後の俳句？これ必要でしょうか？

潤一

じゃあ、あんたが作れば良かったんだよ。職員会議遅刻した奴にあれこれ言われたくないよ。メンドクサイことはみんな人に押し付けて、暢気に饅頭食ってる奴に、文句言われる筋合いはないんだ。

と、泣く。

田川

いとこの結婚式だったんです。ちゃんと事前に言っていました。饅頭は、一個だけ残ってるのを見て、あたしちゃんと確認したじゃないですか。召し上がる人いませんか？って。校長が、早く食べろ、梅雨時は危ないぞって怒鳴った時、私、皆さんに聞きました。シーンとしてたじやないですか。卑怯ですよ。今更そんなこと持ち出すなんて。食べたくもない饅頭食べて、そんなこと言われるなんて。

潤一

遠慮したんだよ。みんな。腹減ってたんだよみんな。最後のひとつをみんな狙ってたのに。井出先生なんか、くじ引きしようって言って、こよりまで作っていたのに。

田川

知りませんでした。私、なんてことを……。あやまってこよう。井出先生に。

しのぶ

あのう……

田川

え？

しのぶ

橘先生の旅のしおり、枕にすると、ほんと、よく眠れるんです。首のところにもちょうど良く収まって、広辞苑より薄く、岩波国語辞典より厚い、なかなかないです。この厚さの本は。

潤一、しのぶをなぐる

田川

先生、女生徒を殴るなんて・・・。

潤一

あんたいつも言ってるだろ？男女同権で。俺は、男も女も容赦なく殴るんだよ。男女平等だからな。

田川

男子でも女子でも、体罰自体間違ってます。先生は武力行使で、一体何を手に入れようとしているんですか？教師という権力を笠に着て、弱い立場の生徒達を、飼い慣らそうとしているだけではありませんか？

潤一

何をおおげさな。これは私の愛の鞭です

まだ倒れていたしのぶ起き上がった

しのぶ

愛の？

潤一、また殴る。また倒れるしのぶ。

潤一

鞭だ。

しのぶ、また起き上がって

しのぶ

愛の？

潤一

しつこいぞ

と、また殴ろうとするその腕を、雪夫がつかむ

雪夫

しつこいのは先生です。霧が濃くなってきました。もう月も見えない。帰ったほうがよさそうですよ。

雪夫

と、潤一の腕を掴んだまま、力を入れる。痛みで声も出ない潤一
田川先生、僕らは、橘先生を尊敬しています。不器用だけど、一生懸命だ。だから、多少のことには目を潰れるんです。欲や利益がからんだ武
力行使と、先生の愛の鞭を一緒くたにしては、先生が気の毒だと、僕は
思いますけど。

と、潤一の手を離す。

田川 雪夫君は陸上部で、毎日橋先生の指導を受けているんですものねえ。
直助 ヘプバーン！ヘプバーンが消えた。
すみれ 時夫！時夫が消えた。

女生徒達、十字架の辺りに集まっていた。

百合子 これ、何？

と、地面に埋まったものを引っ張り出そうとする。

桜子 どれどれ。

と、細長い布のようなものが出てくる。

と、どこかから、声が聞こえる

声 いけない、駄目だ。いけない。

桜子

今、誰か、何か言った？

一同

んんん。

と、首を振る

女生徒達、また、引っ張り出そうとする。

声

いけない。駄目だ。いけない。

桜子

やめよう。何か聴こえる。

芙蓉

何言ってるの？サツコ。

桜子

風の音かしら……。なんか怖いわ。

百合子

これ、りぼんみたい。水色のりぼん。

アザミ

制服のりぼんと同じ色だな。

と、どんどん引っ張っていく。と、そのりぼんに引っ張られ人が現れる。その人の裸の胸に縫いつけられたりぼんの先を一同は引っ張っていたのだ。驚愕する一同。修は失神して倒れる。裸の男起き上がる。

男の上半身は裸。下は白いドレスのロングスカート。奇妙なキリストにも見える。一同ストップモーション。辺り暗くなり、月が煌々と光る。
と、客席から女の声とする。

声

あの、ここゲート座じゃないんですか？

声の主の女性は客席で隣の席の人に話しかけていた。

隣の人

……。

声
あの、ゲート座ですよ、ここ。あのゲートって、「ファウスト」書いたあのゲートじゃないんですか？

隣のお客も、そのまた隣のお客も相手にしないので、声の主、今度は舞台に声をかける。

あの、質問なんですけど、あのゲーテ座ってゲーテの作品を上演する劇場じゃないんですか？

転換中の役者達も声の主を無視している。と客席の後方から劇場の係員が静かにやって来て小声で声をかける。

係員
女
あの、お客様、他のお客様にご迷惑がかかりますので。
えっ？

とやたらでかい声を出す。

係員
女
ですから、他のお客様に……。
質問してるだけでも私は。
係員
女
後で伺いますので。
係員
女
あんた知ってるの？
は？
女
ゲーテ座ってゲーテの作品やってるんじゃないの？これ和物よね。

係員 ゲーテ座のゲーテは英語のゲイティが語源で「陽気な」という意味だと聞いております。

女 そうなの！それにしちや陰気な役者ばかりじゃないの。

係員 ああ、静かにして下さい。他のお客様に……

女 出て行って？

係員 いえ、あの……

女 ここゲーテ座でしょ？

係員 違います。

女 違うの？

係員 はい。

女 じゃ、何座？

【赤レンガバージョン】

係員 横浜赤レンガ倉庫一号館でございます。

女 あんた誰？

係員 レセプションニストの〇〇です。

女 レセプションニストって？

係員 レセプションを企画運営する係でございます。

女 実行委員みたいな？

係員 さあ・・・

女 横浜だとやっぱり英語で肩書き考えんのかなあ。

係員 横浜でなくても、日本全国そうだと思いますけど。

女 え？また接収されたの？日本全国。また大勢人

が死んだのかい？

係員 何おっしゃてんだか・・・さっぱり。

女 (小声で) あんた処女かい？

係員 ・・・・

女 (大声で) あんた処女かい？

係員 違います！

女 何があっても死んだりしちゃダメだよ。

【青山円形バージョン】

係員

青山田形劇場でございます。

女

あんた誰？

係員

シアターフェイスの〇〇です。

女

シアターフェイスって？

係員

劇場の顔でございます。

女

恐いね、劇場に顔があるなんて。

係員

は？

女

屋根の上に住んでんの？それとも床下？いつも

どっかにくっついてないと顔とは言えないものね。

係員

あの・・・

女

恐いわあ・・・まるでオペラ座の怪人だ。

係員

シアターフェイスは愛称のようなもので・・・

女

何人いるの？

係員

〇〇〇人ですか。

女

どれが本物？

係員

は？

女

劇場の顔は一つだろ？インドの〇〇みたいに三つあんの？

係員

お客様、チケットを拝見いたします。

女

チケット？あら？ここにあったバック知らない？ここにあったバックの

中に入ってたのよ。あらあ？ない、ない、ないじゃないの！

係員

その紙袋は？

女

これには入ってないのよ。黄色い皮のバックよ。

係員

お客様、ちよつとあちらの方へ。

女

あちらって？

係員

ロビーの方へちよつと……

女

チケット買ったわよ、ちゃんと。バック盗られたのよ。捜してよあんた

も。お客がバック盗られたって言ってんだから。ドロボー！誰！あたしのバック盗ったの！

係員

静かにして下さい。

女、舞台上にいる役者達に

女

何か言っよ、見てたでしょ？私のバック盗ったの誰？財布もチケット

も大事なものを全部持ってかれちゃったのよ。そうか、あんたでしょ！あんたが盗ったんじゃないの？

係員 チケットはこれです。あの、後ろに立っているお客様のチケットです。

女 え？・・・

係員 静かに退場さえしていただけたら、こんなこと言わずに済んだのに。

女 ・・・

係員 昨日もお見えでしたよね。この同じ席に、昨日はたまたまこの席が空いておりましたから、私どもの方でも、黙っていたんです。事を荒げて、他のお客様にご不快な思いをさせるのもどうかと思ひまして。

女 初めてよ、私。ここに来るの初めて。

係員 いいえ、その白い紙袋も、その洋服も、私、ちゃんと覚えております。あちらのお客様がさきほどからお待ちです。このお席はあのお客様のお席なんです。

女 馬鹿にしないでよ、私を誰だと思ってるの。あそこに倒れてるあの役者の母親よ。あの子友達が少なくてなかなか切符が売れないってこぼすから、私が観にきてあげてるだけじゃない。あっちの空いてる席に移るから観させてよ最後まで、息子の晴れ姿観させてよ。ちよつとあ

んたからも言っちゃってよ。

失神している修困っている。

ちよっと、ちよっと、起きなさいよ。

やめて下さい。僕、初舞台なんですよ。怒られますよ、失神してるのに
口きいちゃったら。

母親が困ってるのに、役の方が大事なのかい？

お婆さん誰ですか？僕が生まれた時、両親はもういなかったんです。産
婦人科の目の前でダンプと正面衝突、ペチャンコのスカイラインで即死
でした。ヘソの緒を切ってくれたのは、荒川警察交通課の服部巡查部長。
たまたま子供の居なかった服部さんが僕を養子にしてくれたんです。

生きていたんだよ。あの後、息を吹き返したのさ。ずいぶん捜したよ、
こんなところで、こんな事やってるなんて。すぐに分かったよ、あつ！
あの時の、あの子だ！ってさ。

修、起き上がって首をひねる。

帰ろう！お袋の味恋しくないかい？これからは二人つきりでアパートで暮らすんだ。帰ろうよ。肩がこつちやつてね、ホラ、石のようだろ？たいていおくれよ、もみほぐしておくれよ、息子ならやってくれるだろ？ホラ、ふくらはぎもパンパン、さすっっておくれよ。息子だったら大事にしてくれるよね。

修、また首をひねる。

係員

お客様！困ります！お客様じゃないわ、お金払ってないんだから。とにかくロビーに行きましょう、ホンット困ります。高木さんも山内さんも協力して下さい！

と席の後ろのほかの係員達に声をかけるが、誰も動かない。

係員

どうして誰も協力してくれないの？川上さん！

と女ともみ合ううち、紙袋の中身がこぼれる。

古い手紙の束と古い写真、下着、カップヌードル、湯沸かし器等である。そして古い水色のりぼんが木箱の中からこぼれ落ちる。

女
何すんのよ！

と女は必死に拾い集める。女、係員が拾った木箱を慌てて奪い取り抱きしめる。

女
ドロボー！ドロボー！これだけはやらないわよ、後はみんなあげるから、

これだけは取らないでえ。

係員
拾ってあげようとしただけでしょ？

何言ってるんだ！みんな盗っちゃうくせに！みんなみんな盗っちゃうくせに！なんにもないよ、みんな盗られてなんにもないよ！気が付いたらなんにもないよ。誰だよ一体、誰が盗ったんだ、あたしの大事なものはみんな、みんな誰かが盗っちゃうじゃないか！

係員
静かにして下さい。もう嫌だ！こんな仕事！やってらんない！

女 薫 女 薫 女 薫 女 薫 女 薫 女

女、楽団のところに寄って行き、ピアノを弾いていた薫に声をかける。

ちよつとあんた。

な、なんですか？

弾きなさい。

は？

伴奏しなさいって。歌うから。

だ、誰が？

あたしが。

で、でも。

いいから。

何を弾けばいいんでしょう？

決まってるでしょ。「盗まれたあたしの歌」

と言って紙袋から譜面を出して渡す。

薫、弾き始める。係員、仕方なく聴いている。

女
(歌う) 幸せってなに？

昔 子供達が 青い鳥を探して 旅に出たって言った
青い目をした子供だったから
白い鳥が青く見えた

子供の幸せは だから 青い色

青い空に青い海 青い浮き輪に青い麦 幸せの色

あたしの目は黒い だから

白い鳥が黒く見える

あたしの幸せは だから 黒い色

黒い喪服に黒い数珠 黒い言葉に黒い夜 盗まれたあたしの色
盗んだのは誰？

幸せを盗まれ 残ったのは黒い穴

と女歌い、二番を歌い出そうとすると

薫 女 薫

もう、いいでしょう？

そう？

充分です。

女、譜面を引ったくり紙袋にしまう。

舞台上に中年の女が三人立っていた。

すみれ、百合子、アザミである。

修はまだ失神している。

すみれ

馬場さん、馬場さんじゃない？

百合子

どうしたんです？こんなところで。

アザミ

探したんですよ。取り壊しの日、みんな集まったんですよ。管理人の向田さんも車椅子で来てました。馬場さんがいなくて寂しそうでした。

馬場

なんの話？

すみれ

やだ、アパートよ。アパートの取り壊し。

馬場

信じませんよ、そんな話。住んでるところまで盗られちゃうなんて、あ

百合子

たしはどこに帰るんです？

マンションが建つんです。来年の春には新しいマンションに住めますよ。今度はトイレもウォシュレットのが各部屋に付くんですって。シャワー付きのお風呂も。

すみれ

中庭がないのが寂しいけど、便利になるんだから。きっとすぐに慣れるわ。東京になれたみたいいきっと慣れるわ。

アザミ

慣れたのかな、東京・・・慣れたのかな・・・

中庭の海棠、もう二度と咲かないのね。花ごと切られて、引っこ抜かれて。向田さんが言った、海棠は和解の木。

小林秀雄と中原中也が何も言わずに、その花散る午後、和解したから詩人から言葉を奪う仲直りの木なのですって。

すみれ

アザミちゃん、ここにも海棠の花が咲いている。

百合子

何言ってるの。だからあたし達、あのアパートに決めたんじゃない。忘

れないように、あの日の出来事を忘れないように中庭の海棠が咲くたびにあたし達は・・・

すみれ

そうね、あの日もこうしてここに座ってた。

アザミ

馬場さんはどうしてここに？

馬場

・・・子供を探してみようかと思つてさ。

すみれ

馬場さん、お子さんいらしたんですか？

馬場

横浜の病院でね、昔・・・十六の時・・・

百合子

十六で生んだの？

馬場

生むはずだった。

百合子

え？

馬場

生むはずだった息子を探してみようかと思つて・・・ホラ、これにへ

その緒を入れるはずだった・・・

と木箱を取り出して見せる。

すみれ

あら？

生まれていれば、もう五十八歳かあ・・・

と木箱からのぞいているりぼんを引つ張ろうとする。

馬場

だめだよ引つ張つちや。返しとくれ。

すみれ

このりぼん、どうしたんです？

馬場

へへへ、あの人とあたしとで半分にしたんだ。あの人が出掛ける朝にあたしの髪のリボンをね、半分切つてあの人に渡した。あの人が半分だけでいいって。ちょうど半分がいいって。そうすれば、この半分の先にあたしが見えるからつて。へへへ、この半分の先にいたはずだったあの人は、今は海の底。人差し指に結んであげたりぼんもきつと海の底。人差し指だけでも帰ってきたらなあ・・・。

どうしてあたしこんなこと喋つてんだ？

さつき、変な歌うたつたからかなあ・・・

ねえ、幸せつて何だろう？

・・・

帰ろうつと・・・

どこに？馬場さん、どこに帰るの？

アパート。同潤会アパート。

昨年取り壊されて、もうどこにもないんですよアパートは。

あるさ、あるんだよ、あたしは毎日、そこから出掛けるんだもの。

どこにあるんです？

すみれ

馬場

百合子

馬場

アザミ

馬場

一同

馬場

劇場さ、劇場には何でもある。あたしはもう劇場の中の同潤会アパートに帰るしかない。そこにあたしの部屋がある。あたしはそこに帰ってそこから出掛ける。そこはまるで黒い穴、あたしは穴から出掛け、穴に帰る。

まるで生まれて死ぬように。

と去って行く。

とシアターフェイス舞台上がってくる。

係員

すみません、黒い服を着たお婆さん見かけませんでしたか？

すみれ

馬場さんなら今向こうに。

係員

お知り合いなんですか？

すみれ

ええ、同じアパートに住んでた方ですけど。

係員

じゃあこれ渡していただませんか？

と黄色いバックを差し出す。

百合子

トイレの洗面台にあったんです。あたし、悪いことしちゃった。

でも、あたし達もいつ会えるか……

係員

じゃあ追いかけます。お客様！お客様！

と去って行く。

三人座る。

すみれ

この辺りだったわよね。

百合子

うん。

すみれ

サッコが何か見つけて引っ張って。

百合子

うん、どうしても思い出せない。あの後何があったのか……どうして

だろう。

すみれ

気が付くと、誰もいなかった……みんなどこに行ったんだろう？

アザミ

都電に乗ったよね。

二人

……

アザミ

乗ったでしょ？みんな。青山車庫に行ったじゃない。真夜中の車庫に電車が並んで眠ってるようだった。横浜から青山までどうやって行ったんだ

ろう？

次の日だった？それとも前の日？いたわよねみんな。

すみれ 覚えてるのは誰もいない教室。あたし達三人だけがポカンと座ってた。

百合子 ダメだ。思い出せない。あの年のことは何も。東京オリンピックのことだ

って何にも覚えてないもの。アベも円谷も日紡貝塚もまるでなにも。

アザミ あたし達の修学旅行は、間違いに持たせたハサミがチョン切ったファイル

ムみたい。これが欲しいと思っていた写真だけがどうしても現像できな

い。

百合子 何回目？ここに来るの。

すみれ 上京してから毎年来てるから……三十五回目かな……

百合子 あたし達、中学の頃はとりたてて仲が良い訳じゃなかった。……だけ

ど、あれから、今日まで、結局離れられなかった。かくれんぼの鬼みた

いに取り残されたままだから……

音楽

すみれ (歌う) もういいかい

百合子 (歌う) もういいかい

アザミ (歌う) もういいかい

三人 何度も何度もためしてみる

もういいかい

聴えて来るのは風の音

聴えて来るのは波の声

すみれ 毎夜毎夜同じ夢を見て

百合子 窓を開けると満月が

アザミ あの日のようにふるえてる

と前景の裸の男が起きあがってきた場所から、時夫とへプバーン
が現われる

時夫 たそがれに紫の雲 走っていたら

海が見えた

汽笛が聞こえる ここはどこ

会いたい人はどこにいる

二人

忘れないで 忘れないで
泣かないで 泣かないで
風の匂いに かげろうの先に見つけて欲しい 私の影

ヘプバーン

すみれ・百合子・アザミ

霧の中に 声が聞こえる 抱きしめたいのに 指すりぬける
ここはどこ その声の先に 何があるのか その世界に行けるのだろうか

一同

花は散る 散る 花は散る 時は過ぎ
新しい花が 星の命の果てるまで
繰り返し 咲き乱れ散る

すみれ

時夫、教えて、みんなどこに行ってしまったのか？どうしてあたし達だけが残されたのか？

時夫

僕には答えられないさ、僕は意志を持たない。姉さんと僕はいつも重なっている。姉さんが思うことは僕が思うこと姉さんが笑うと僕は笑う、姉さんが泣けば、僕も泣く、僕は姉さんの記憶の中で遊ぶしかない、ま

すみれ

るでオモチヤ。

そんなこと言わないで時夫、あの時、この墓地にあんたが現れたのは偶然じゃない気がする。あたしはあの時、初めて、あんたがもうどこにも生きてはいないのだと悟った。だからあれから三年経って、裏山であんたの骨が見つかった時だって驚かなかった。あんたが裏山の軍事訓練場で隣の和夫ちゃん達と鉄くずを拾っていて、不発弾を抱きかかえた途端、それが爆発して死んだということを聞かされた時も、あたしは泣かなかった。あの日に泣いたから、あの日すべてが判った気がしたから。でもそれがどうしてだったのか知りたいの。

時夫

すみれ

呼ばれたんだ……誰かに、誰かが呼んでいた。姉さんじゃなかったの？和夫ちゃんが、あんたが見たこともない男の人に連れてかれたって言ったから、あたしはそれを信じて……どこかで生きてて欲しいって、そればかり考えてた。

時夫

和夫ちゃんは叱られるのが恐かったんだ。入っちゃいけない赤線を越えたから。赤線の中は別な国。そこで死んだのだから僕の責任さ。でも僕はお金が欲しかった。鉄くずを売って手に入れたいものがあつたから。

すみれ

何が欲しかったの？お金ならお姉ちゃんがあげたのに。

時夫
すみれ

……
時夫……

時夫笑っている。

百合子

今日は私達にも見えている。あの日は見えなかった時夫君が。

と、どこからか女生徒がやってきてしゃがんでオナラをする。し
のぶに良く似ているが現代の中学生である。
しのぶと似ているその子の名前は「しのべ」
起きあがる修

しのべ
修
しのべ

キャッ！
えっ？
痴漢よ！痴漢！

と方々から現代の中学生達が現われる。

やはり修学旅行生達である。

A なんだよ、お前をおそう奴なんかいるかよ。

修 あれ？

B どこにいんだよ痴漢がよ。

しのべ 今誰かあたしのお尻に触ったような気がして。

あくびをしながら引率の教員吉岡がやってくる。吉岡の背中に向かかってしのべが懸命に何か話しているが、吉岡は気付かない。すみれ、百合子、アザミ立っているが、生徒達構わずバラバラに動き回っている。吉岡も構わずノートパソコンを開いている。生徒の一人煙草を吸ったりするが、誰も構わない。携帯でメールをする生徒。抱き合っているカップルの生徒など。しかし、誰も構わない。

修、驚いて首をひねっている。

別の女生徒達、缶ジュースを飲んでその辺に捨てる。

アザミ ゴミは持ち帰りなさい。

生徒無視する。

アザミ

ちよつと、ゴミ捨てちゃダメよ。

と生徒の腕をつかむ。と生徒固くなり泣き始める。

吉岡

何すんですか？うちの生徒に。

アザミ

この子ジュースの缶をそこに。

吉岡

ああ・・・

持ち帰るよう指導しないと。それに修学旅行も授業の一環なんだから飲み食いさせるべきじゃないと思いますよ。

吉岡ムツとする。

あそこで煙草吸ってるけど、中学生でしょ？

煙草を吸ってる中学生ジロリと吉岡をにらみつける。吉岡、何事もなかったようにパソコンで旅のスケジュールを立てている。

修

どうなってるんだ、ここはどこなんだ？さっきのはしのぶのへじやなかったのか？おい、しのぶ、しのぶ、

しのべ、まだ吉岡に何か話している。

なんだよ、誰も俺の声が聴こえないのか？

あの、オバサン、オバサン、

と、すみれたちにも声を掛けるが、誰も気付いてくれない。とへ
プバーンが近寄ってくる。

アザミは中学生に注意し続けているが無視されたり、殴られたり
している。

すみれと百合子、アザミを止めたり加勢したりしている。吉岡は
あくびをしながら、ノートパソコンに旅の予定を書き込んでいる。
修、呆然と立ちすくむ。

へプバーン

四十年も失神してるから。

修
四十年？

と首をひねる。

あんたは？

へプバーン

へプバーン。

修
直助の？

へプバーン

そう、飼い猫。

修
ヘプバーン
修

直助は？
行方不明。
どうなってるんだ一体？

ヘプバーン、地面を掘る。ドクロが一つ出てくる。

ヘプバーン

な、なんだよこれ。
あんたの骨。

修

えええ！

ヘプバーン

雪夫がクサヤを忘れたから、あんたあのままここで腐って、自分がクサヤになっちゃった。

修

ちよつと待ってくれ。あの時、俺は……

そうだ、ここから死体が起き上がってきてそれに驚いて、失神したんだ……。

みんなは？みんなどこに行ったんだ。

ヘプバーン

時の彼方に。直助が私を置いて出掛けたように。

修

よく判らん。俺は一体どうなっちゃったんだ？あ……この子供は？

ヘプバーン

時夫、月に住む少年。夜になると月に帰るのよ。時夫、時をもどして、真昼の月に願かけて。

時夫、目をつむり集中する。
と轟音とともに大地が揺れる。

大正十二年九月一日 関東大震災 浅草寺雷門前

現代の中学生達、いつの間にか大正時代の女学生と学生に変化している

修もいつの間にか袴姿に変わっている

修 こ、これは……

と女学生栗原夏江が走ってくる

夏江 牧野さん、牧野さん、こっちこっち

修 夏江さん。

みんな陸軍被服廠跡地に避難してしまいました。今なら誰にも邪魔されずに二人きりでお会いできますわ。

修 ちよつと待って下さい。こんな大地震の最中に、夏江さんは何を考えているんです。こんなことが発覚したら、あなたは女学校を退学になってし

修

これは嘘ですか？
ほ、ほんとです。

むなしきまでに 恋しかり。」

ああ その声の
永遠に消えじ

今日初めて夏江さんの声を聞いた
永遠に消えじ

「君を知り 恋を知る
君の瞳、君の口唇

と懐中から恋文の束を取り出すそして地面にへばりついて揺れ
ながら中味を読む。

夏江 修 夏江 修 夏江

まいますよ。

大丈夫、家財道具を積んだ大八車があちらにもこちらにも、みんな必死
で逃げまどっている、誰もあたし達に構ってる暇なんてありませんわ。

ああ！地割れだ、電信柱があ！

飛び越えて！飛び越えてこちらに！

そんなあ！

牧野さんあたしが好きなんでしょう？

この恋文に書かれていることはみんな本当なんでしょう。

夏江

なら、飛び越えられるはずよ！

と又手紙を読む。

「真夜中に開く私の白バラよ、

あわわわ
淡淡とした緑の帯の白バラよ

どこからともなく匂うて来る

お前の悲しい流し目の寂しさ

ああ、

夜ごと夜ごとまぼろしに咲く私の白バラの花

バラよ、

お前は私の知らない間に咲いてしまった。

私の腕にありともしない息を吹きかけて、

お前はつつましく咲いてしまった

匂いの消えようとするはるかなバラのいとおしさよ、

もっと私へ手を伸ばして下さい

ふし目して、うなだれて、後ろを向いた白バラよ。」

こうやって手を伸ばしているじゃありませんか！

この手紙は嘘なんですか？

いえ、で、でも、夏江さんがこういう方だったとは、こうやって、お互

修

夏江
修

い口をきくの初めてですから。
あたくしだって決死の覚悟で参ったのです。今日の今をのがしては、もうお会いすることもできませんわ。早く！早く！早く！
よし！そこまで言われては男が立たぬ、今、参ります。

と地割れで三尺ほど開いた絶壁を飛び越えようとすると、夏江の女学校の教師黒沢龍子がいづくばって追いかけてくる。

黒沢

ダメです！来てはダメ！

夏江

あっ！黒沢先生。

黒沢

あんな貧乏学生と逢い引きなんて許しませんよ。お父様に知れたらどう

夏江

なさるおつもりですか？私、死んでお詫びするしかございませんのよ！

黒沢

見逃して下さい。先生、ちよっとお話するだけです。女学校の門の前

夏江

ですれ違い様毎日袖に差し入れられるこの恋文。こんな美しい詩を書く

黒沢

方がどんな方なのか知りたいだけなのです。
その詩は盗作です。「うしろをむいた薔薇」

夏江

今年の「青猫」新年号に載った大手拓次という詩人の作品です。

修

本当ですか？牧野さん。

黒沢

……

修

本当ですよ、やたら甘ったるい薔薇の詩ばかり書いている軟弱な詩人の

黒沢

作品です。

修

すみません夏江さん。けれどこの詩は僕の本心です。

黒沢

まるで僕の心を代弁したようなその詩にひかれ、あなたに読んでいただきたかった。信じて下さい夏江さん。飛びますよ僕は！
いけません！夏江さんには立派な婚約者がおられるんですから。

とたて続けに鉄砲をうつ音が聞こえる。

夏江

なんですか！あれは。

修

花屋敷の方から聞こえる。

黒沢

猛獣たちがうち殺される音ですわ。飼育係の大滝老人が涙ながらに象や虎を殺す音です。

夏江

昨日見ましたわ、可愛い子供のトラが五匹生まれたばかりなのに……

黒沢

この地震で檻が壊れたら、人を襲ってしまうかも知れないからです。

夏江

お釈迦様のために火に飛び込んだうさぎみたい。

黒沢

夏江さん、早く逃げましょう。こんなところにいたらみんな死んでしま
うわ。

修

と無理矢理夏江の手を引っぱって反対側に連れ出そうとする。

夏江さん！被服しよう跡地で逢いましょう待っていますから。いつまでも

待っていますから。

それからこれ！

と懐中から包みを出す。

今日はこれを渡したくて、あなたをここに呼んだんです。イギリス人と結婚した伯母が「あなたの好きな方にあげなさい」と言って僕にくれました。

と包みから一巻きの水色のリボンを取り出す。

西欧では結婚する時、花嫁衣裳の下にこの水色のリボンを縫い付けておくこと必ず幸福になれるんだそうです。

下着にですか？下着につけるんですか？

そう思います。受けとって下さい。

ありがとうございます、牧野さん、きっと大切にいたします。

ほうりますよ。

はい！

受けとって下さい！僕の愛を！あなたが永遠に幸福でいられるように！

とリボンをほうる。夏江ひとリボンの端を持つ。

夏江

私があなたと一緒にいる時に必ずこのリボンを下着につけてお嫁に行きますわ、そして幸せになります、あなたと二人で。きつときつと待っていてね。

ピンと張ったリボンの先に修消えていく。

リボンをたぐり寄せる夏江。

何かが爆発する音が方々で聞こえる。

方々で火の手があがる。

次々に川に飛び込む人々。

黒沢

夏江さん、私につかまって。

夏江

先生は泳ぎが得意なんですか？

黒沢

私は小豆島しょうじまの出身ですから、遠泳はまかせて下さい。そのリボンで二人

の体を離れないように巻きつけましょう。

とリボンをぐるぐる巻きにする。

夏江

み、みんなおぼれてる。

黒沢

ええこの東京で、この時代に泳げる人はほとんどいません。だからみんなこの隅田川の濁流に飲まれて死んでしまいました。泳ぎ切ったのはほとんど地方出身者なのです。

夏江

先生、私、助けては欲しいけど、一生恩に着ないとダメですか？

黒沢

ダメです。

夏江

トホホ。

二人必死で泳いでいる。

というリボンなのですよこれは

と一卷きのリボンを娘の春子に差し出している十四年後の夏江。
三十一歳になっている。

昭和十一年二月二十六日

雪が降っている。

春子は十七歳。年が合わないのは春子が先妻の娘だからである
夏江はリボンを切って春子のドレスの下着にぬいつけている。

牧野さんは死んだんですか？

ええ。爆風でスミになってしまいました。被服しよう跡地では四万人の
人が死んだんです。

東京で十万人、横浜で十二万人。

そう、東京も横浜も焼け野原になりました。

こんなに沢山つけるの？

ええ、春ちゃんにはお母さんの分も幸せになって貰わなくちゃ。

お母さん、お父さんと結婚するとき、これつけてたの？

春子
夏江
春子
夏江
春子
夏江
春子

夏江
春子
夏江
黒沢

いいえ。
どうして？
好きな人じゃなかったから。
奥様。

とたしなめる女中頭の黒沢龍子。

春子
黒沢

お龍^{タツ}さんはどうして学校をやめて家の女中になったのさ。

責任を感じたからです。あの時牧野さんが、こちら側に飛んでいたら、一緒に助かっていたはずだから。それにあなたのお父様と一緒にいなくなって、夏江さんは何も食べようとなさらなくて、みるみるやせてしまつて。お父様もあきらめて、嫁いだ翌日から寝室は別々、おめかけさんのいる別宅に入りびたつてしまつて……

明日はお嬢様の婚礼の日だというのに、今日も帰つてらっしゃいませんねえ。

さ、できた。私は春ちゃんがいたからちつとも寂しくなかったわ、ありがとう春ちゃん。

こちらこそ、おなかを痛めたほんとの子供じゃないのに、可愛がつて下さつて、長い間、本当にお世話になりました。

奥様これからどうなさるの？

先生は？

夏江
黒沢
春子
夏江

黒江 黒江 黒江 黒江 黒江 春子 春子 夏江 夏江 二人 二人 夏江 夏江 二人 二人

私は奥様についておりますよ。

結婚なさったら？

何をおっしゃいます、もう四十ですよ。

こんな広いお屋敷で年老いた生娘が二人で暮すのは気味が悪いでしょ。

そんなことないですよ、向いの教会の尼さん達なんてみんなそうですよ、

いつそのこと尼さんになります？

お母さん、家に来ない？真下さんに頼んでみましょうか？

いけませんそんなこと、あちらは長男で、お姑さんと小姑が二人もいる

んでしょ？

先生、覚えてる？私が婦人公論の記者になりたいって言った時のこと。

ああ、震災の前でしたね。

先生が反対なさってあきらめたんですよ。

だってちょうどあの頃、有島武郎が婦人公論の女性記者波多野秋子と軽

井沢で心中したんですもの。

知ってる！美人記者が不倫したんですよ？

バカでしたよ私は。今になって思えば記者の方が気の毒ですものね、ま

だずいぶんお若い人なのに………どんな心中事件も、女の方が忘れられ

てしまう………もう誰も語ろうとしなくなる………。

あたし、これからなろうと思うの。

え？

婦人公論の記者に。

ええ！

夏江

私が女学校に入ったのは働く女性になりたかったから。お父様が勝手に決めた顔も知らない男性と一緒にあって、家に閉じこもるためじゃなかった。

だいたいがおかしいでしょ？女だけが嫁入り前の貞操を求められ、男性は政府公認の娼婦の邸に出入りするの当たり前なんて。

良家の子女の貞操を守るため、貧しい女性が犠牲になるというのもおかしいわ。女性のことを真剣に考えるのは女性にしか出来ない仕事でしょう？私は同じ女性のために真実を書く記者になりたい。

なるほどねえ。

二人

女中達集まっている。

夏江

長い間ごころう様。あなた達にもこのリボンをさしあげます。

と夏江、一卷きのリボンをハサミで切って女中一人一人に渡していく。

あなた達一人一人が、いい方と出会って幸せな結婚ができますように。

女中達夢見るように受け取っていく。

その中に田川の母、梅もいる。

梅 春子

梅さんは山形に帰るの？

はい。三年前の飢饉で妹二人は吉原に売られてしまいました。まさに奥様のおっしゃる通りですが、無学な私なんかは何をどうしていいのやら。じっちゃんもばんちゃんも、食いぶち減らすため今年は山に入ってしまった。今ごろはもう仏様だ。私だけこんなに幸せでバチが当たらんじやないかと思っていました。

私にとつてはまるで夢のような十年でした。山形さ帰って、牛のように、馬のように働きます。

父ちゃんと母ちゃんを少しでも楽にしてやりたい。それだけです。

家にあるものはみんなあなた達で分けていいのよ。

奥様。

夏江 黒沢

明日の春ちゃんの披露宴が終わったら、私、この家を出て行きます。あの人が家に帰ってくる前に、売れるような家財道具は全部持って行きなさい。皆さんの退職金です。春ちゃんも私を探さないでね。

私黙っています。なにも聞かなかったことにいたします。

お父様にはお妾さんが三人もいるし、子供だって八人もいるんだから、何も困りやしませんわ。

私だってフェリス女学院で女性の未来を学びましたもの。お母様を精神でささえることにいたします。あなた達もお判りになつて？

貝になります。そして静かに退場いたします。

んんん

黒沢 女中達

春子

春子

どうしたの？お龍^{たち}さん。

黒沢

私はどうしたら良いのかと……

夏江

先生にもこのリボンを。

黒沢

とリボンを切って渡す。

奥様、私、速記を勉強いたします。奥様が記者になられて取材などします時、私、その場で速記いたします。

つまり、お側に置いていただけませんか？

夏江

んんん

黒沢

もうこの歳ですから新しい出会いは欲しくない。私が体をはってお助け

した生命、最後まで見届けとうございます。

トホホ、好きにして下さい。

夏江

このリボンは絹ですね。すべすべツヤツヤ。

女中1

何て美しいのでしょうか。

女中2

もったいない、もったいない。

女中3

もったいない。

夏江

このリボンはね、明治時代に横浜の紡績工場で、貧しい女工達が生命をけずって織った宝です。自分達は一度も身につけることのない夢の織物を、寝る間も惜しんで織ったのです。この国の繁栄のためにね。

まるで夕鶴がみずからの羽根を千切って与ひよの未来をささえたように。

このリボンは、ある時は外交官婦人が鹿鳴館で踊るドレスの裾を飾り、ある時は気紛れな貴婦人が孫に贈る誕生日プレゼントの小箱に巻かれた品なのです。

そして私が男の人に初めていただいた贈り物。私はね、あの方と、牧野さんとお話が出た。ただそれだけで。恋をするということがどういうことなのか私は知りたかった。

愛されるということが一体どんなことなのか知りたかった。

愛し愛されるということは自由な心でしょ？自由な心には上も下もない。かすじたりかすじられたり、高いも安いもない。ただ川のように流れる心の有り様を感じたかった。そしてあの日が始まりのはずだった。このリボンは私にとっての愛の予感でした。そして一瞬にして消えた乙女の欲情。そして希望。私の愛はこのリボンに吸いとられてしまった。私の幸せはこのリボンの先にある。そしてその先は永遠に向かっている。自由な心という永遠に。そのためなら私なんでもします。そんな永遠に恋してしまったの。

いつの間にか夏江一人になっている

雪の中、軍服を着た男達が群れをなして走って通り過ぎる。

△音楽▽

無言劇

昭和十一年から二十一年まで十年を五分で演じる。

ウエディングドレスを着た春子とフェリス女学院の英語教師、真下貢の婚礼が始まる。

途中空襲の音。赤紙が配達され、真下婚礼の服をはぎ取られると下は戦時下の日本軍の軍服。

春子ウエディングドレスの下着についた水色のリボンを人々にはぎ取られる。そしてその下着もはぎ取られると下はモンペの下。

横浜大空襲

日本の国旗が燃え、ゴミと散り、アメリカの旗が方々に生まれ肥大していく。

焼け野原。女の子と手を引いて歩く春子。

終戦。

春子、疎開先に移動するため娘とともに列車に乗り込もうとする。声を掛ける男。首を振る春子。

しかし強引に手を引っぱる男。

方々で女達の手をつかむ男達。アメリカの国旗と日本の国旗が重なっていく。

女達鉄格子の檻に閉じ込められて行く。檻から手をのばす女達。そしてその檻は巨大なアメリカの国旗にスッポリと包まれる。国

春子

(歌う)

待ちましよう 薔薇が生まれるまで
待ちましよう 百合が生まれるまで

旗の下の檻があつた所が平らになりその平地から、一景の白塗りの男が現われる。

白いドレスを着た背の高い男である。

白いパラソルをさしている。

男黙って立っている。水色のリボンが胸から下がっているのが見える。

行き過ぎる男達に声を掛けるドレスの男。男達ドレスの男を襲い、暴行し去っていく。

口から血を流して倒れるドレスの男。男、必死で起きあがろうとする。

辺りは暗くなり、月が煌々と光る。

制服の少女達舞台の外側に眠るように倒れている。その中央で倒れている男。バンドネオン奏者の少女中央まで歩いてきて、倒れた男を見下ろしている。

そして月を見る。

和服を着た春子現われてやはり月を見る。

少女舞台中央で演奏を始める。

春子歌う。

慌てすぎて こぼさないよう

焦りすぎて 壊さないよう

大事に胸にしまいましょう

そう「心」を「心」を

こぼさないよう 壊さないよう

待ちましょう

待ちましょう 薔薇が生まれるまで

待ちましょう 百合が生まれるまで

いつか 開いた心に 花園が囁きかける

「生きていて良かった」と

春子歌っている間男起きあがって静かに退場していく。

春子しゃがむ。

女生徒達起きあがり立木のように静止し、手に持った海棠の花を
寂しげに散らせる。

昭和四十九年 青山車庫

潤一通りかかる。春子五十五歳になっている。

春子片目をつぶったり、両目を大きく開いたり、

上品な和服姿とは似つかわしくない表情を作っている。

潤一

やっぱりやめよう、恥ずかしいし、でも軽く言っちゃった方が、かえって変に思われずに済むかもしれないし、どうしよう・・・
どっちでも良いですよ、僕は、どうせすぐ帰るんだし、じゃあ、お先に。

春子

でも、言っちゃおう、誰もいないんだし。

潤一立ち止まる

潤一 春子 潤一 春子 潤一 春子 潤一 春子 潤一 春子 潤一 春子

どうしました？
ええ・・・
あの・・・
月が・・・
月が？
見えないんです。
はあ・・・
どうしてだか今日は月が見えない。
いつもは見えるんですか？
ははははは
はあ？
そんなこと言えませんかよ初対面の人に。
潤一立ち去ろうとする。

春子

ちよつと待ってよ、声掛けといて、会話もしないで、通り過ぎていくな

潤一

んて、やっぱり冷たい、近頃の若い人は。若くもないです。

春子

失礼、月のない夜は暗いから、皆さん私より若く見えちゃう。

潤一苦笑する

潤一

ないんですか？月が。

春子

ほんとはあるけど、見えないの。どうしてだか判る？

潤一

さあ・・・

春子

林のせい、この林のせいで、空が見えない。

潤一

どの林？

春子

この林。

潤一

どの？

春子

この。

潤一

こんな深夜の街中のどこに林があるんです？

春子

あなたには見えませんか？この林が、この木々が。

潤一

僕に見えるのは行き交う人ばかり。

春子

人に見えますか？あなたにはこれが・・・

潤一

ああ、途切れましたね。若いカップルが渋谷駅に向かって走って行く。

春子

そろそろ終電だ。

春子

あなたは乗らなくていいの？

潤一
春子
潤一

用事が済んでない。始発で帰るからいいんです。
どちらからいらしたの？
横浜です。お婆さんはどこまで帰るんです？仕方がない、送りましょう。

とため息つく。

春子
潤一

嫌な人ですね、あなた。
え？

春子

たった一行で二度傷付ける罪な人。

潤一

判らんなあ？見知らぬ老女をお宅まで送ってやろうなんて、今時珍しく
親切な人間です僕。

春子

「お婆さん」で一度、「仕方がない」で二度、「老女」で三度。私まだ五
十五歳です。

潤一

あなたいくつ？

潤一

二十一歳です。

春子

•••

潤一

二十一の僕から見ればあなたは充分にお婆さんです。それに、僕には用
事がある。色々と忙しいんです。たまの休みを利用してやらなくちゃな
らないことが山ほどある。だけど、こんな所にあなたを一人で置いて帰
るのは気がひける。「仕方がない」と思わず口をついて出た。その言葉が
罪ですか？可愛いでしょ？充分に可愛い青年じゃありませんか、僕は。

潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子
潤一 春子

老けてる。どうみても四十前。

今は昭和四十九年ですよ。みんなこんなもんです。

大学生？

夜間のね、昼間働く苦学生です。

さ、行きましょう。

どこへ？

お宅へ。

いいんですよ。あたしは都電で帰るから。

都電？

ここは青山車庫、ここで電車を待ちますの。

電車はもう七年前から走ってませんよ。ここらは整備されて、「戦後」が

におわない。二十一世紀型の街が生まれる。

だから小野田さんはブラジルに行くのね。戦争中の頭で帰ってきて、戦

後でもない街になんか住めるはずがない。

小野田さんには僕も驚かされました。

ルバン島島のジャングルにたった一人で三十年間も潜伏していたなんて。

僕と同じ二十一歳だった人が五十一歳になつてる訳ですから。誰とも話

さず三十年も、本当に耐えられるものなのでしょうか？

先週池袋の文芸座地下で市川雷蔵主演の「陸軍中野学校」を観ましたが、

僕にとっては別世界のお話です。

あ、電車が来る。

え？

春子 潤一 春子

電車の音がするでしょう？
は？
月のない夜にはあたし、この電車に乗るんですの。

と春子またしやがむ。

都電の行き交う音がする。

女生徒達静かに列をなし電車を待ち乗り込んで行く。

春子微笑む。

潤一 春子 潤一 春子 潤一 春子 潤一 春子

何も聴こえません。

あなたは何も見えないし、聞こえないのねえ。

・
・
・

あ、月が出た。月の都へ電車が走る。行ってらっしゃい！行ってらっしゃい！（とはしやぐ）

やめなさい、みつともない、人が来ますよ。

いいじゃないの！たまにははしやぎたいのよ。

別にいいけど関係ないから。

あんた誰よ。

は？

あたしは毎日この時間に私の電車を待っている。自問自答の三十年はきつと小野田さんと同じ。どうしたって死ねなかった。それもきつと同じ。私が乗ろうと思っっている電車はもう来ない。あの月の中にいるもう一人

の別な私がいちらの私に手を振ってるだけ。夢の駅に向かう電車の窓から笑って手を振る。
行ってらっしゃあい！行ってらっしゃあい！
あたしに声を掛けたのあんたが初めて。

と煙草を吸う。

何だかくずれてきましたね。

あ？

お婆さん、くずれちゃった。

なんだってくずれるさ、ピラミッドも東京タワーもいつかはくずれる。

あんたの若さだって泡沫さ。

私の子供の頃、自分が五十になるなんて想像も出来なかった。つまり、想像が現実を上回る事なんてこの世にないってことなんだ。現実の方がいつも残酷で厄介だ。そして逃げられない。気が付くといつも焼け野原。シワが増える度人が死ぬ。

僕の父はアメリカ兵でした。

何だよ急に。

いや想像より現実が上回ることの例として。

あんたどうみてもアジアの血だよ。

ところが胸毛だけ金髪なんです。胸毛が生え出した高校の頃から何だか妙だとは思っていたんですが、まさか自分にアングロ・サクソンの血が

潤一 春子
潤一 春子
春子

潤一 春子
潤一 春子
春子

流れていたとは。先週、祖父の日記を見るまでは想像もしてみなかった。いやその人が祖父だと知ったのも、その祖父が死んでから判ったことなんです。

と若い馬場幸子走ってくる。

馬場 向田さん、やっぱりここだったの？

春子 馬場さん、今日は遅いのねえ。

馬場 個展の楽日で打ち上げやっててさ、こんな時間になっちゃって。一緒帰ろ。あら、グッドイブニング。

潤一 え？

馬場 外人さんでしょ？あ、違った、やだ月の光で金髪に見えた。

春子 向田さん、この人は？

潤一 さあ？ただの通りがかりの人。

馬場 大林です大林潤一、人を探しているんです。

潤一 こんな真夜中に？
朝から色々訪ね歩き気が付くとこんな時間。お金もないので始発で帰ろうと。

春子 横浜から来たんですって。

馬場 あら向田さんも私も生まれは横浜よ、横浜のどこ？

潤一 日の出町の材木屋で育てられ、昼は中華街の安楽園で働いています。

馬場 安楽園はしゅうまいがうまかった。あそこのはなれには草笛光子もおし

潤一

馬場

潤一

馬場

潤一

馬場

春子

馬場

潤一

馬場

潤一

馬場

潤一

二人

潤一

二人

潤一

のびで来てるって聞いたけど、ホント？

秘密です。チップ貰ってるから。あつ。

行ったら安くしてくれる？

ダメですよ、まだまだ新米ですから。

年いくつ。

二十一。

……そう。力になってあげようか？誰探してんの？

またすぐ若い人みると馬場さんは。

若い人はそれだけで気の毒じゃないか、夢ばかりが大きくて、大きな夢

に見合った人生なんかありやしないってことさえ知らなくて、ただただ

我武者羅なんかも。見てるだけで泣けてくる。生きのびて欲しいよ何

があつても。助けてあげるよ。私で良けりや。

はあ……

うちの人も二十一。

え？

三十年前からずっと二十一。同い年のあんただから助けてあげるよ。

実は母を捜しているんです。正確に言えば母の死体を。

死体？

埋まっているはずなんです。同潤会アパートの中庭に。

え？

中庭に海棠の古木があるアパートに母は埋められているはずなのです。その木の根本に埋めたのだと、祖父の日記に書いてありました。てつき

馬場 潤一 春子 馬場 潤一 馬場

り横浜だと思っていましたから、横浜の同潤会アパートを一件一件尋ねて歩いたのですが、海棠のある中庭は見つからない。それで今日は東京の上野、江戸川、大塚、代官山と歩きつかれてヘトヘトです。今日はもう遅い、明日またおいで、青山アパートに。

え？

中庭にあるよ、海棠が。

私達が住んでる青山アパートに。

ホントですか？

明日またおいで。

と二人走って行く。

一人残る潤一

しらじらと夜が明ける

汽笛の音。

潤一歩いて行くと

白いドレスを着て、パラソルをさした男とすれ違う

胸元から見える水色のリボン

潤一

そのリボンは……

ドレスの男立ち止まる。

そのリボンちよつと見せてくれませんか？

ドレスの男指を二本立てる、Vサインのようにも見える。

は？

高いんです私。

は？

二万です。

何が？

は？

え？

いくらもってるの？

三千円

じゃあ、握手だけ。

と手を出す。思わず潤一も手を出して握手する。そして別れる。
男追いかけて手を出す

三千円。

は？

お金出しなさい。

え？

潤一 潤一

男 潤一 潤一 潤一 潤一 潤一

潤 男
一

絶対だめ。
なんでだよ！

潤 男
一

いいからちよつと。

と二人追いかけて

潤 男 潤 男
一 一

これは失礼いたしました。
ついその胸のリボンに気を取られまして。ちよつと見せていただきたい
のです。

潤 男
一

その通りです。
まさか、「僕の前に道はない、僕の後ろに道はできる」といった。

潤 男
一

街の女に手を出したらただじゃ済まないでしょ。
知りませんでした。あなたがそういう方だとは。僕は奥手でして、そう
いう行為は大学出てからにいたします。

潤 男 潤 男
一 一

え？
からかったの？

潤 男
一

長嶋茂雄だったら出してもいいが、なんであんたに？

潤 男
一

三千元。
どういうことですか？

握手したでしょ？三千元で。

男 潤一

男 潤一 男 潤一

男

と潤一、人が変わったように狂暴きょうぼうになり、男を押し倒してリボン
を引っぱる。のびるリボン
はだけた胸にぬいつけられたリボン

こ、これは！

だからダメだと言ったんです。

と息を切らして横になる。

ああ、恐かった、殺されるかと思った。

祖父の血だ、おじいさんの遺伝子が僕を狂暴にする。
え？

祖父は人殺しです。シベリアで仲間の肉を食ったばかりか、自分の娘ま
で首を絞めて殺した男です。僕にはその血が流れている。

戦後の日本人のほとんどは人殺しの子孫です。平和な街で薄笑いを浮か
べてる、その笑顔の奥で殺された人達の骨がカタカタと泣いている。生
きて帰った兵士の子孫なら、いつ殺人鬼に豹変しても不思議じゃない気
がする。どんなお人好しだって正直者だって、生きるためには心を殺す
しかない。

・・・・・・

このりぼんはヘソの緒代わり。

男 潤一

へソの緒を千切られ墓場に捨てられた私の体はこのリボンに巻かれていた。ミイラ男の包帯みたいにグルグル巻かれたその先はこの胸に。生まれたばかりの赤ん坊の裸の胸にリボンをぬいつけて捨てるような親もいる。そしてそんな親であつても、探さなければ気の済まない、そんな孤独もあるんです。

あんた名前は？

浜のりぼん。ここらの人は親しみと軽蔑とを合わせたような表情で「りぼんちゃん」と呼んでくれます。

呼びにくいから本名を教えて。

それが無いから、浜のりぼん、横浜の浜、野に咲くバラの野。このりぼんのりぼんなのです。あんたは？

潤一

ほんとは潤。同潤会の潤。祖父がつけたと知りました。戸籍の上では大林潤一、養父の大工、大林幸一が引き取った時に一をつけて潤一、大林潤一です。

りぼん

上に兄が二人いて、新一、完一とみんな一の字が下に。どうしてまた一の字を？

これが悲しい知恵なのです。養父は特攻隊の生き残りです。予科練の同期達が次々に命を散らした只中で奇跡的に出撃をまぬがれました。戦後、空襲で焼け野原になった横浜を歩いておりますと、同じ隊の上官に山下公園でバツタリ出会ったのです。その時父は聞いたのです。

「どうして僕だけ生き残ったのでしょうか」と。

隊員の名簿のページを繰りながら、翌日出撃するメンバーを決める。そ

りぼん
潤一

の苦渋の選択がどんなものか判るかい？と上官は泣きました。好きな奴嫌いな奴、気の合う奴、合わない奴、そんなことはもう関係ない、どうせ全員がいつかは死ぬ。いろはにはほへと決めていき、ただ一つ、長男らしき名前の隊員を後へと回して行った。万が一戦争が終わった時、一家をささえる長男がいなくては家族が困り果てるだろうと、一つの名前の男を最後まで残しておいたと上官が涙ながらに語ったのでした。

養父の大工大林幸一は、いつかまた日本が戦争になった時、自分の息子たちが生き残れるようにと、子供全員を長男のようにみせかけるため、一の字をつけたのでした。

親も兄弟もそろってあだなはいっちゃん。養母は一子いちでこれまたいっちゃん。家族全員、あだながいっちゃん。まぎらわしい家族だと近所でも評判でした。

ほんとの両親は今どこに？

母は殺されました、祖父に首をしめられて。

父はたぶんアメリカに。フェリス女学院の女生徒を強姦したらしい父親は今頃白いおうちでシェパードなんか飼ってんだろうなあ。金髪の奥さんに「子供たちをお願いねジム、私教会に行つてチャリティのお手伝いしてきますから」なんて言われて、「判ったよベティー、貧しいアジアの子供達のために、義援金を送るんだね。神の祝福を。」「ありがとうジム、行つてきます！」「チュッ」なんてね。

りぼん

潤一

りぼん

潤一

りぼん

潤一

りぼん

潤一
りぼん

あなたも混血でしたか。
あなたも？

ええ。生まれつき蒙古斑がありませんでした。

僕にはあった蒙古斑。ゲルマン民族の遺伝子は胸毛だけに現われた。どうせなら草刈正雄みたいになりたかった。

マモル・マヌーなんかは純粹な日本人だったらしい。

そら、くやしいなあ……ところであなたどうしてそんな格好を？そういえば、子供の頃、そんな格好の女を見たことがある。白いドレスに白いパラソル米兵の中でも将校しか相手にしなかったという厚化粧の女。

みんなが呼んでたあだなまで思い出したぞ「皇后陛下」だ。子供だったから本物だと思って港まで見に行ったことさえある。あんたあの女にそっくりだ。

このりぼんが女の持ち物だったに違いないと聞いた時から、この姿になりました。このりぼんをドレスの下着につけていたのを見た船員がいるのです。

その女があんたの母親かい？

その女が私を捨てた女なら、そうに違いない。

根岸の外人墓地に私を捨てた女を捜しているんです。この姿で街に立つと男が声を掛けてくる。あの女と間違えて声を掛けた男がいるなら、あの女のことを知っているに違いない。

どんな女で、どんな事情で捨てたのかきつと判るに違いない。肉の一部に同化して、まるで静脈の一本のようになりみつくこの水色の

潤一

りぼん

リボンの秘密も聞くことが出来るでしょう。その女「皇后陛下」が妊娠していたことだけはお客に聴いて知りました。その子供が生きていたならちようど二十七歳で、私の歳とピタリ合う。誰も知らない子供の行方。この身がそうなら……。

りぼんさん、あなたは自分の母親を知るためにだけ娼婦になったというのですか？

いけませんか？胸のりぼんを気味悪がられ、誰も引き取り手のなかった僕に孤児院の尼さん達はずいぶん良くして下さった。だけど僕は、僕の生まれた意味を知りたかった。何のために生きるのか、生きる理由が欲しかった。母を捜し、母を知る。僕はそのために生きることにした、僕が生きるのに、その他の理由はいらない。だからもう僕は悩まない、僕にはもう悩みなんかありませんよ。

潤一

りぼん

オカマが僕なんて言っついていいんですか？

潤一

りぼん

母を知るために男と寝るんですか？

母の男と寝るんです。すると僕の体に母が生まれるような気がします。僕が母になり、母が声をあげる。母を抱いた男の体が僕をせめたてる度に母に抱かれているようなそんな痛さを感じます。

潤一

りぼん

母の愛が痛いものかな。

このぬわれた胸の激痛が母の愛なら、愛は痛いんです。毎夜水で冷やさずにはいられないほどの痛みです。

潤一

ひどい母だ。見えないムチで虐待を続けるひどい母親だ。

りぼん

どこかに必ずいてくれるそれだけでもいい。
痛くても感じられるだけで。

潤一 吐き気をもよおす。

潤一

どうしました。
また始まった。

と苦しがる。

りぼん
潤一

何かの病気の発作ですか？どこかに薬でも。
背中を、背中をたたいて下さい。

りぼん 背中をたたく。

もつと強く。

りぼん 強くたたく。

潤一の口の中から何かが出てくる。

それは水色のりぼん。りぼん、そのリボンを取ってやろうとして
引っ張って行くと、それは舞台一面を覆うほどに広がって行く。
やっとりぼんの端が出てきて発作が収まる。

りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん
 潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん
 潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん
 潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん　　潤一　りぼん

これは……

そのりぼんに良く似たりぼん。

これは何かの手品ですか？

病気なんです。

え？

欲情しかけると出るんです。今日の発作が今まで一番長い。短い時で三センチ、長い時でも一メートルほどだったのに。

どういうことです？

さっきあなたの母親が男に抱かれたら、あなたが母親に抱かれたりする複雑怪奇な場面をふと想像してついエッチな気分になりました。それでこんなに長いりぼんが。

そんな……

この病気のせいで、僕は女を抱けないんです。

からかってますね？

どうなってるんだ僕の胃袋。僕もきつと母親にのろわれている。このりぼんで僕をきつと縛るんだ。りぼんで絞め殺された母だから、僕にりぼんを孕ませるんだ。

どういうことです？

僕は倉庫の中で生まれたんです。赤レンガの倉庫の中で。祖父に絞め殺された母の死体の股の間から。

ええ？

音楽

女生徒達方々から現われ、床のりぼんを拾い踊り始める。
どこかの戸口にフェリス女学院の制服を着た少女のシルエツト
が浮かびあがる。

窓から射し込む鮮烈な月明かり。

潤一のいた場所に毛皮の帽子をかぶり黒いオーバーコートを着
た潤一の祖父真下貢がいる。

潤一の二役である。

それを見ているりぼん。

女生徒の名は真下花江、春子の娘である。おながが大きい。

花江歌う

花江

(歌う)

待ちましよう 薔薇が生まれるまで

待ちましよう 百合が生まれるまで

慌てすぎて こぼさないよう

焦りすぎて 壊さないよう

大事に胸にしまましよう

そう「心」を「心」を

こぼさないよう 壊さないよう

待ちましよう

真下

春子か。

花江

お帰りなさい。ほんとに遅かった遅かったのですね、ずいぶん待ちましたわ。でも生きてて良かった。

真下

……

花江

でもどうしてこんなところで？ホテルニューグランドを予約しておりましたのに。

真下

その声も顔も、まるで私達が最初に出会った頃のままだ。時が返ったのか……

と真下、花江を抱きしめる。

真下

シベリアで劇場を建てたよ、日本では見たこともない設計の石造りの劇場だ。

手すりやバルコニーに使われる〇〇の木を運んでいて、昔、お前と演じた英語劇を思い出した。

ロミオとジュリエットの「バラの名前」のくだりを英語で喋る

花江続きを英語で答える。

建設中に梁から落ちて仲間が何人も死んだ。木を運び、石を運び、体がポロポロになった。

そして出来上がった舞台の上にお前の姿を何度も見た気がした。その姿

はいつも少女だ。教室に花を飾る制服のお前。図書館で「赤毛のアン」を読むお前。文化祭で羽根の生えた天使の役を演じるお前。私が教えた英語でジュリエットを演じるお前。誰のものでもない花のようなお前。それがなぜ？なぜこんなことに？

と懐中からりぼんを取り出す。

それは……

そうだよ、出征する時にお前がくれたりぼん。お前がウェディングドレスの下につけていた幸福を呼ぶりぼんさ。他のものはすべて焼けきり、はぎとられてしまったが、これだけは肌身はなさず持ち歩いた。

とそのりぼんで花江の首を絞める。

花江
真下

なにをなさるの。
なぜ生きて帰ったのか私は何のために生きるのか、どうにも感情を止められない。

花江

……お父様……お母様を許してあげて……
ごめんなさい、あたしがかわりにあやまりますから。

真下

……

と息絶える。
月の光が花江の顔を照らす。
真下、正気に返る。

ドアが開き、春子来る。

春子

あなた！

真下

お前は……

春子

春子ですよあなた。

と駆け寄って花江の遺体に気が付く。

真下

は、花江……あなたは、あなたは何てことを。

春子

花江……
娘ですよ、あなたの娘の花江です。

真下

……

春子

この子はきつと知っていたんです、こうなることを。だからきつと私の身代わりになって死んだんです。抑留されたあなたは、いぶん御苦労な

さったでしょうが、戦後のこの街がどんなだったか、あなたはちつとも

春子

あなた！

真下 春子 真下

お判りじゃない。
この街の女と子供が疎開したのは戦時中じゃない、戦争が終わってからなんですよ。この意味が判りますか？米兵から婦女子を守るため、男だけがこの街に残ったのです。一部の女子を犠牲にして。
私はこの子の手を引いて、昔うちで女中をしていた梅さんの実家のお世話になろうと列車を待っていたんです。すると、政府の指令を受けたという柄の悪い男達に取り囲まれました。
英語が堪能だったあなたに出征前スパイの容疑がかかったことがありませんよ。その時のことを持ち出され、あれこれせめたてられ、私は連れもどされたのです。あなたはもう死んだことになっていました。国がやめたことなんです。戦後も私はお国のために働いたんです。それでも私をせめますか？
死ねば良かったんだ、毛唐に身を任すぐらいなら。
……逃げようとした娘が一人、米兵にうたれて死にました。あれが私なら良かったんですか？
……

花江を抱きかかえ肩にかついで去って行く真下。花江のスカートからおびただしい水色のリボンがぶら下がる。

春子、真下が落としていたりぼんを拾い上げる。じつと見ていたりぼん、ゆつくりと近づき、春子の肩を抱く。
花が散る、りぼん歌う

りぼん (歌う)

待ちましよう 薔薇が生まれるまで
待ちましよう 百合が生まれるまで

慌てすぎて こぼさないよう

焦りすぎて 壊さないよう

大事に胸にしまいましよう

そう「心」を「心」を

こぼさないよう 壊さないよう

待ちましよう

方々から同潤会の住人達集まり歌う

一同

(歌う)

待ちましよう 薔薇が生まれるまで
待ちましよう 百合が生まれるまで

いつか 開いた心に 花園が囁きかける

「生きていて良かった」と

昭和四十九年 同潤会アパート中庭

すみれ
馬場

馬場さんどうしたの？その猫。

歌いながらピアノで伴奏していたのは百合子だった。
薫は何か別の楽器を演奏している。すみれと桜子、百合子を囲んでいる。馬場幸子白い猫を抱いている。

春子

夕、海棠の根元で鳴いていたんだよ。捨て猫さ、洗ってやったら白くな
った。可哀そうだから飼ってやろうと思ってる。
いいでしょう？向田さん。
・
・
・

百合子

馬場さんこの前の小鳥はどうしたの？

馬場

盗まれた。

百合子

え？

馬場

ベランダに置いてた鳥かごと持ってかれちゃった。

桜子

じゃあ、昨年拾ってきた柴犬は？

馬場

盗まれた。

桜子

ええ？

馬場

散歩の途中で渋谷のハチ公前のベンチにつないでてさ、トイレからもど
つてきたら、つなごと消えてた。きつとこの猫もいつか誰かに盗まれる。
私はきつと幸せそうに見えるんだ。だから誰かが嫉妬して、私が可愛

がつてるもんを盗ってくんだね。きっとそいつは色んなものを持っていく。人様から盗んだ色んなもんを。けどどいつまでたつても満たされない。そいつは人様のもんが欲しいだけだから。自分がほんとに欲しいもんなんか判らないんだもの。

食えば食うほど腹の減る餓鬼みたいなもんさ。あふれ返ったものに囲まれた部屋で「欲しい欲しいもつと欲しい」って泣き叫んでるんだ。気の毒な奴さ。

すみれ、百合子、桜子、顔を見合わせる。

誰か名前をつけとくれ。あたしがつけるとすぐに死んじゃうから。

へプバーン。

いい名前だ。私の若い頃のあだなと一緒に。

・
・
・

すみれ
馬場
一同

潤一テーブルを運んでくる。

潤一

春子

春子さん、どの辺に置けばいいですか。
その海棠の木の下に。

住人達テーブルにクロスをかけたりとティーパーティーの用意を始める。

天井には海棠の花の枝がぶらさがっている。
舞台中央に海棠の古木があるらしい。
テーブルは舞台のほぼ中央に置かれ、色の付いたクロスがかける。
住人達潤一とりぼんにイスをすすめ、紅茶を入れてやる。

潤一
いつもここでお茶会を？

春子
お客様がいらして、その日が晴れの日の日曜なら。

潤一
本当にここに母の亡骸が埋まってるんでしょうか？

馬場
掘ってみりゃいいさ。あわてることはない、後でみんなの手伝ってあげるよ。けどどうしてあんたのおじいさんは何でわざわざこんなところに死体を埋めなきゃならなかったんだらう？

春子
もしかすると真下は、あの人は、私の母と会ったのかもしれない。私の結婚の日に出て行った育ての母の夏江に。

花江が死んでひと月ほど経った頃、音信不通だった母から手紙が届いたんです。十年振りの手紙でした。あて名は向田春子で、なぜか真下と別れたことを知っていて、私の住んでたバーの二階の四畳半の住所まで知っていた。封筒の中には「一緒に住みましょう。しばらく留守にするけれど私が帰るまで待って下さいね」そんな簡単な文面の手紙とリボンの付いた鍵が入っていたんです。封筒の住所を頼りに出かけると、そこはこのアパートでした。私はこの中庭にしのび込み、部屋の鍵穴の一つ一つに鍵を差し込んでみたくんです。すると一階の五号室の鍵穴にピタリ

潤一

と合ってドアが開きました。その部屋で母を待っているうちに、もう二十年も経ってしまった。

変な話だ。祖父は春子さんがここに来るのを知っていて、先回りして埋めたって言うんですか？せめてもの罪滅ぼしにここに埋めたと？

春子

母の部屋のテーブルの上には一巻きの水色のリボンが置いてありました。母が昔、好きな人に送られた思い出のリボン。

……私も花絵も幸せにはなれなかった。あんたが男で良かったよ。りぼんなんかつけずに済むからね。

潤一

つけなくても出るんです。僕の体はリボンを生む体。この体質が治らない限り、僕も一生独身です。

桜子

あの……りぼんちゃん、さんでしたね？

りぼん

はあ……どこかでお会いしませんしたか？前にどこかで。

桜子

さあ……

りぼん

一度会ったら夢に出てきそうな人だよこの人は。

春子

この服のリボンは、その一巻きのリボンの一部だったんですね。私があげたのさ、あんたの母さんに……同い年で、境遇も似てたから、私たちは気が合った。

あの人は戦後名古屋の方から流れてきたって言ってたけど、元々は美術の教員をして、生徒たちと疎開先の広島で被爆したって言ってました。小学校の校庭に穴を掘り、旦那と生徒達の死体を焼いたそうです。みんな死んで証人もいないから被爆者手帳も貰えないって、コッペパンかじ

りぼん
春子

りぼん
春子

りぼん
春子

りぼん
春子
桜子

りながらポツリと言ったつけ。

ほんとか嘘か戦前はフランスに留学したことがあって、藤田とうじの家で旦那と知り合ってたって言ってましたよ。

どんな人です？母は……。

笑わない人だった。だからたまに笑うとね、左のほっぺにエクボができて花が開いたようでしたよ。

いつだったか、二人して笑ったなあ……悲しい時に。傷口なめ合うみたいに思いつきり笑ったなあ。

もう死んだんでしょか？

さあ……。あたしがこっち来てから、便りもないですから。

あの人は文字が書けない人です。被爆の後遺症でね、筆が持てなかった。

心理的なものでしょうね。「学校」や「子供」を連想させるものすべてがダメだった。指がふるえてね。

原爆落としたアメリカ人に抱かれても平気なのにつて笑ってた。

母は、学校や子供たちから一番遠い世界に逃げたんですね。

……どうでしょう。あの人のいつも持ってた四角いバックの中には額に入った天皇陛下の写真が入ってましたから、身を持って天皇様をお守りするという意志の方が強かったと思いますよ。

さっぱり判んない。その心理。

それで母は皇后陛下に、皇后の身代わりになった気でアメリカ兵と？

そんな気持ちだったと思いますよ。心はいつも生娘みたいな人だったから。お相手は必ず将校より上の位と決めていた。頑固な娼婦でしたよ。

馬場

向田さんはどうだったの？何も過去をとやかく言うつもりはないけれど、やっぱり驚くよ。十五年も同じアパートにいて、初めて知った過去だもの。

春子

お金さえいただいたら、真面目に奉仕する。それだけのことでした。給料のない国家公務員みたいなもんだったんですから。

馬場

生真面目な娼婦かあ……

春子

真面目じゃなきゃできませんよあんなこと。毎日毎日漢字の書き取りの宿題やってるようなもんなんですから。早く終わらないかとそればかり考えてました。

桜子

わたし、どうしても理解できません。どうして日本だけが、公娼制度というものを制定したんですかね。国ですよ。公で認めるなんて、頭、おかしくないですか？女を買え！と国が言うんですよね。堂々と買うんですよね？みんなホモだったのかな、日本のリーダー達って。え？

馬場

女が嫌いってことですよ。じゃなきゃ考えつかないもの。

桜子

失礼ですが、あなた御職業は？

桜子

上野動物園で、チンパンジーの飼育を。

りぼん

……はあ……

桜子

優しいですよチンパンジーの男は……ジローっていうんですけどね。女買ったりしませんもの。

さつきからテーブルの下でゴソゴソやっていた潤一、顔を出す。

馬場
潤一

もう掘ってたのあんた。
これなんですかね。

と人形を二体出す。セーラー服にモンペをはいた防空頭巾の女の子の人形と予科練の制服を着た人形である。

馬場

あっ、それあたしの。昨日この二体だけ売れ残ったから埋めようと思
つて。

潤一

は？

馬場

盗られちゃ嫌だからさ。去年柴犬飼ってた時に犬の生態を観察して体得
した知恵よ。

潤一

こういうの作ってんですか？

とテーブルに乗せる。

馬場

いや、それだけ、そういうのは。だから売れ残ったのね。私の作風はメ
ルヘンよメルヘン。おとぎ話に潜む毒とか、血とかにこだわっている訳。
単なる乙女の夢物語じゃない訳よメルヘンは。少女の美しさっていうの
はある種残酷性にある訳でしょ。「美」にこだわらって、ほんと力いるの
よね。シンデレラ、白雪姫、人魚姫とかね、童話に出てくるお姫様を作
ってるのね。ドレス着てるのみんな、ウェディングドレスのが一番先に

潤一
馬場

売れたな。後は王子様、カップルにしてガラスケースに入れてね。布から織るのよ私は。絹糸仕入れて、パタンパタンあの部屋で織ってくのよ。そして好きな色に染めて、デザインしてぬって……この中庭の植物がドレスの色にさんの。これでもドレメー一番で出たのよ。昨日打ち上げで渋沢と寺山がはなさなくてさあ。種村は初日に来たかな。私はただの職人ですからって、逃げてきちちゃったあ……。

潤一、人形の防空頭巾を取るとポニーテールに水色のリボン。

これだけですか？日本人の人形は。
そう……埋めといて。

と潤一、二体の人形をテーブルの下に返そうとするが、人形言うことを聞かない。人形に引っ張られる潤一、人形、人の大きさになつてタンゴを踊りだす。

（男装した百合子とセーラー服にモンペのすみれ）

その二人はかつての馬場幸子と許婚の関口誠である。

二人ひとしきりタンゴを踊りポーズを決めてシルエットになる。明るくなるとそこに本物の十六歳の馬場幸子と二十一歳の関口誠が同じポーズをとっている。

馬場

あたし落としてしまったの、沢山持ってきたのに。お煮しめも、五目豆

も誠さんの好物沢山作ってきたのに、棧橋から海に落としてしまったの。

と泣く。

誠
馬場

いいんだよ、幸っちゃんの気持ち嬉しいんだから。だって、もう会えないのよ、会えないってどういうことか判る？幸子にはわからない。考えられない。

誠

歩こう幸っちゃん。

誠
馬場

どうして誠さんは婚姻届を出して下さらないの？あんなに約束したのに。だって、僕は死ぬんだから。幸っちゃんはまだ十六歳なんだよ、僕は幸っちゃんを幸せにするために死ぬんだから。幸っちゃんはいずれ、他の誰かのお嫁さんになって幸せになるんだ。そうでなくちゃさうでなくちゃ僕が出かける意味が無いだろ？

誠
馬場

嫌です、そんなの嫌です。

僕は忘れない君を。だけどね、君は、幸っちゃんは生き残った誰かと一緒にあって丈夫な子供を生んでこの国を育てていかなくちやならない。いつかきつと平和な国になる、それを信じるから僕は行くんだもの。平和になったこの国で美しい色の服を着た幸っちゃんが声をたてて笑う声が聴こえるようだ。

と馬場のリボンをとって半分にか切る

そして胸のポケットにしまう

馬場

君は僕を忘れてくれていい。だけど僕は忘れない、このりぼんの先の半分には君がいることを。僕には父も母も兄弟ももういない。だから僕が死の間際に思うのは君の事だけだと思う。だから約束してくれ、絶対に幸せになるって。絶対に泣かないと。
……約束します。私もう死ぬまで泣きません。何があっても。でもうれしい。忘れるもんか！

誠 ゆっくりと死んでいく

昭和五十八年 神津島海水浴場

倒れていた誠の服を脱がせ人工呼吸をしている百合子
誠、ここでは海の監視員の島の青年団の神田守二十五歳。口から水を噴出し息を吹き返す。

百合子 大丈夫ですか？大丈夫ですか？

守 こ、ここは。

百合子 神津島の前浜海岸です。

守 僕、おぼれたんでしょうか？

百合子 はい。おぼれた子供を助けようとしておぼれたんだと思います。

守 子供は？

百合子
守
百合子
守
百合子

あそこでスイカ割りをしています。
良かった。あなたは。
榎本百合子です。銀座の高島屋でエレベーターガールしてます。
スママセン、監視員が溺れるなんて恥ずかしい。
そんなこと激務ですもの、お疲れになったんだわ、ハハハハ、スママセン、ハハハハ、なんだかおかしくなっちゃった。
私人助けなんて初めて、ハハハハハ。

と笑いながら同潤会アパートの住人が水着姿でやってくる。潤一
とリボンもいる。

と桜子とすみれで水着姿の百合子にミニの可愛いウエディング
ドレスを着せる。

春子水着に水色のリボンをつけてやる。春子杖をついている。

潤一、守に簡単な新郎の上着を着せ、ハワイのレイのようなもの
をつけてやる。

潤一
という訳で二人の思い出のこの神津島の前浜海岸で婚礼の式を挙げるこ
とになった訳です。

一同拍手。

馬場

百合ちゃんきれいよ！

潤一

私も同潤会アパートの管理人になりました、早五年。皆様の月々の積立金での年に一度の慰安旅行の際に思いがけない出会いがあり、このような新しい、形式にとられない披露宴が出来ますことは管理人冥利につきる訳でございます。

守さん、百合子さんおめでどう！

おめでどう！

守さん一言お願いします。

守 潤一
いやあ、最高っす！照れるっす！

当分百合子と共働きで頑張ります。

百合子 東京都とはいえ、神津島はこんな田舎でアパートもないけど、大丈夫か？

百合子

守 私も山形の田舎の出だから。

百合子 一緒に漁に出してくれるのか？

守 魚とります。守さんの助手になります。

潤一 可愛いなお前は！
百合子さん、みなさんに一言、今のお気持ちを。

百合子突然歌うそして踊る。

百合子 (歌う) 嬉しい！嬉しいわ！

一同 (歌う) 人生何が起こるか判らない

百合子 (歌う) 先に行くけどごめんなさい。

一同 いえいえ

百合子 (歌う) 私はちよつと運がいいだけ。四十度の熱が出て複雑骨折した時も、無

遅刻無欠勤で働いたあ

すみれ 私も

桜子 私も

春子・馬場 私も

百合子 (歌う) 低賃金にも負けず、セクハラにも負けず盆も正月も働いたあ

守ビールを注ぎ回ったり挨拶したりしている。

すみれ 私も

桜子 私も

春子・馬場 私も

百合子 (歌う) 人生は捨てたもんじゃない。あきらめないで歩いていけばいつか夢が叶うもの

おぼれた王子を助けた人魚は海のアブクになったけど、私は明るく生きていける。胸高鳴らせ光をあびて 新しい夢の世界へ

一同 (歌う)

あきらめないで歩いていけば

いつか夢が叶うもの

古い靴は投げ捨て

新しい街に出よう

空に向かうビルの林
あれは悩みなき城
胸高鳴らせ光をあびて 新しい夢の世界へ

と一同ラストのポーズを決めようとしたところで守呼び笛を吹く。子供がおぼれたらしい。

高波、飛び込む守、ざわつく一同

潤一
百合子
守さんも結婚パーティの時ぐらい監視員休めばいいのに。
そんなマジメな所が好き。でも心配。

守おぼれている
飛び込む百合子
しかし時は遅し
波がひくと倒れている守。人工呼吸をしている百合子。

守さん！守さん！

りぼんを手に出している守。

腰のりぼんがほどけちゃったのね。これをつかんでって言ったからあ
たし・・・

守ぐったりとする。白衣の男達現われ、タンカで運ばれる守。
先ほどの音楽マイナー調に変わり演奏される。
一周するうちベッドが現われ一緒に一周する。その中央で花を置
く百合子と馬場。
中央のベッドで寝かされる守。

昭和六十四年 池袋

医者手術を始める。

この場面はNHKのERを参考に劇団員が考える。

医者、太ももにくいこんだ銃弾をピンセットで取り上げる。

ウっとなり起きあがる守いや、この場面では川上正也

痛えよ！

正也 一般市民まで巻き込んだんだぞ。好きでやってるやくざのケンカだ、麻

酔なんかかけてやらないよ。

くそう・・・

ついでの痔の手術もやっといたから、しばらく動けないぞ。

勝手にやんなよ。

じゃあ全部もとに戻してやるか。

正也 医者
正也 医者
医者

ともう一度ピンセットで玉をつかみ、メスをあてようとする。

ごめんなさい、もうしません、しませんから。

ったく、これでも小指切れるんです。

正也
医者

とメスを指に近付ける。

すみれ

先生、遊ばないで下さい。罪を憎んで患者を憎まず。院長がいつも言っているじゃないですか。

医者

上田君、正月なのに酒も飲まず、骨身を削ってだね、こんな手術を何時間もかけて成功させても、またやるよ。いずれ死んじまうんだよ。もつたいないだろ、時間と労力が。こういう奴は、生命がおしくないんだもの、自分が大切じゃない奴は人様の思いやりなんか死んでも判らないんだよ。くそう！ムシヤクシヤする。又助けちゃったよ！くそう！

すみれ

先生、人の生命の重さはみんな同じです。

医者

そうかね。・・・今朝の手術で死亡した牧村さん、十歳を頭かしらに四人の子持ちの主婦だ。夫は白血病で入院を繰り返し、看病しながらパートの掛け持ちしてだよ、自分がガンに犯されてることに気が付かなかった。早期発見できてれば助かったのに。忙しすぎて救急車で運ばれるまで検査も受けられなかった。「まだ死ねない、死にたくない」
子供達の顔見ながら、手にぎられちゃって・・・

すみれ
医者

こいつの生命を、牧村さんにくれてやりたかったよ！
先生……

いいんじゃない？死にたい奴は死ねば！こっちも忙しいんだ。あんただ
つてそうだろ？安い給料で寝ずに働いて、四十になっても結婚もできな
いじゃないの。ほんとに生きたいと思う人間だけに生命かけたいよこっ
ちは！

酔ってますね、先生。

すみれ
医者

正月だよ、上田君。こっちはのんべんだから、そら、飲むさ。飲んだ
つて腕がいいから成功しちゃうんだよ、いまましい。

正也
医者

天皇がお倒れになったのに正月もないだろ。

あ？誰？上田君、人の生命は平等だってあんた言ったよね。こうしてる
間にもどこかで誰かが死んでいってる。一日で何十万人も殺されること
だってある。それでも人は笑って酒を飲む。誰だよ天皇って。知り合い
じゃないからさ。

正也

わざと挑発してんな、その手にや乗らねえんだよ。

すみれ
医者

帰るわ！上田君点滴は、こっちが抗生剤、こっちが消毒液だから。
逆です。

医者

バレたか。じゃ。

すみれ

と他の医者を引き連れて帰る。

雪ね……

正也

高いんだろ。うな。

すみれ

え？

正也

保険証持ってねえんだよ。

すみれ

組長が払ってくれるんじゃないの？こういう時は。

正也

組なんか入ってねえよ、フリーだよフリー、巻き込まれただけなんだよ。今日は、貧乏くじ引いてばっかりだよ。

イテテテ

すみれ

運がいいわよ。心臓停止してたんだから。

正也

金貸してくんねえかな、十万、五万でもいいよ必ず返すから。貯め込んでんだろ？独身って言ったもんな。

すみれ

・
・
・

正也

嘘だよ。何か話したくてさ、とっかかりが欲しくて。

すみれ

寂しいね、そんなとっかかりじゃ。

正也

・
・
・

すみれ

死なないなら貸してあげてもいいけど。死んだら返して貰えないもの。

正也

姉ちゃんもそんなこと言ってたなあ。

すみれ

え？

正也

男に騙されて、自殺しちゃったけどさ、テレビの二時間ドラマでよくあるだろ？浴槽に水はって手首切ってさ、青い顔して沈んでるやつ。冷たいよ姉ちゃんも、俺がいること忘れたんだよ、男に夢中で。

すみれ

あんたいくつ？

正也

三十四。無茶すんな死んじゃダメだって、姉ちゃんいつも言ってたくせ

に、ずるいよ姉ちゃんは・・・あれ？十年も前のこと思い出しちゃった、なんでかな・・・
あんた見てたら、思い出しちゃった・・・

と泣く。

昔シンナーやりすぎて、脳ミン溶けちゃったんだよ俺、判んねえよもう、姉ちゃん！

と号泣する

すみれ抱いて頭を撫でてやる。と頬つぺたの赤い綿入れを着て毛糸の帽子をかぶった時夫現れる。

時夫 姉ちゃん、誕生日欲しいものあつか？

すみれ

時夫 俺、知ってたんだ。駅前の金閣堂で姉ちゃん毎日ショーウインドーさ顔く

つつげで中見でっぺ。じっと、この前なんか十五分も見つだっけぞ。

すみれ

時夫 俺昨日中さ入ってみんだ。マネキンがかぶってる帽子だべ。フェルト

の帽子さ、きれいな水色の絹のリボンがついだやぶ。

いらね、高いもの。大人のかぶる帽子だ。

時夫 買ってける。俺、こづかいためて買ってける。

すみれ

時夫

すみれ
時夫

いらね、見でただけだ。好ぎなだけだ。
似合うぞ姉ちゃんさ、薄桃色の帽子と水色のリボン。

雪の中に消えて行く

すみれ

時夫・・・

正也泣き疲れて眠っていた。
すみれ歌う

すみれ

(歌う)

お休み 世界の子供たち
お休み 母のない子たち
よせては返す 波のよう
嘘とほんとはめぐりくる
いつか朝日がのぼったら
大人になっているでしょう

お休み 夜が明けるまで
お休み 抱いてあげるから
遠いお空のお星様
あなたの胸にある光
いつか涙がかわいたら

C A C B 二人 B C A B C A B A

大人になっているでしょう

すみれ一番は正也を抱きながら歌い、二番は一人で歌う。この間
ベッドは移動して消える。正也ベッドに立ち上がり歌の終わりで
ゆっくりと倒れる。

病院の掃除婦達徐々に現れ掃除しながら喋る。つまり床に落ちて
いる雪の紙ふぶきを掃き出しているのである。

死んだよ。

ああ、六階の患者だろ？窓から飛び降りたんだろ？

違うよ、昭和が終わったんだよ。

だから右翼の患者が殉死したんだろ？

殉死？薬のせいだろ？幻覚、幻覚、殉死するなら切腹だろ？普通は。

江戸時代じゃないんだから。

じゃあ、今何時代よ。

東京時代でしょ。

ああ？

だって江戸時代は山形でも青森でも江戸時代なんだから。

山形も青森もないんだよ江戸時代は。

じゃ何時代よ、今は。

明治時代。大正時代。昭和時代……でいいんじゃないの？六十三年も
続いてんだから。

B A 二人 C B A C B C B A C B A 二人 A C B 一人 A

だから終わったんだよ、今。

……

西暦でいうと？

一九八九年か？

西暦ってキリストが誕生した年を紀元元年として数えるらしいよ。

ええ！知らなかった。

あたしも今朝新聞で見てびっくりしちゃってさあ。

イスラム教とか、ヒンズー教とかの信者どうすんのよ。良く許したね。

他宗教の暦。

最初に誰が言ったのかね。

自分で言ったんじゃないの？キリストが。

まさか言わないよ、赤ん坊は口利かないもの。

キリストでも？

そうかキリストだもんねえ。

でも誰が聞いてたのよ、マリア？

馬なんじゃないの？

馬鹿すぎるわあんたたち。やっぱり弟子とかがメモしてて後でさかのぼ

って考えたのよきつと。

いつ頃？いつ頃できたのよ西暦って、それまではどうしてたのよ。

さあねえ……

なんでサルから人間に変わった年を元年にしないんだろう？

馬鹿ねえほんとに。昨年までサルで今年からヒトなんてことないでしょ

B A C B A B C B C B A B A B C

う？いつの間にかヒトになったのよ少しずつ。進化ってそういうもんでしょ？

いつ頃？ヒトになったの。

何月何日みたいには決められないって言うてるの。それにキリスト教の人の祖先はアダムとイヴでサルじゃないんだから。地球だって丸くないのよキリスト教は。

ちよつと待って、じゃあ西暦っていうのは、サルから進化した人間の暦じゃない訳？

白人の暦だからね。

じゃあサルから進化したのは？

黄色人種だけなんじゃないの？

じゃあ白人は？

……なんかね、骨、誰かの骨じゃなかったかなあ。

誰の？

なんか昔読んだんだけど忘れちゃったなあ。

骨ってことは死体だね、ゾンビってこと？

馬鹿すぎて話したくないあんた達とは。

何の話してたっけ？

だから、なんでサルからヒトが生まれた年を紀元元年にしなかったってこと！

だからねえ！

桜子

桜子飼育係の姿で突然現れ、講演し始める。

サルにも色々ありまして、霊長類は約百六十種あります。まず大きく原猿類と真猿類。原猿とはより原始的な形質を残した仲間です。キツネザル、ガラゴ、ロリスなどです。

真猿類は、広鼻猿類―新世界ザルと、狭鼻猿類―旧世界ザルの二つに分けられます。さらに、狭鼻猿類がオナガザル上科と、ヒト上科に分けられます。

ヒト上科は人類を含む系統群で、テナガザル科―小型類人猿、オランウータン科―大型類人猿、ヒト科に分類されるのです。ええ、

とポケットから手帳を出して盗み見する。

テナガザル科は人類との共通祖先から一六〇〇万年から二〇〇〇万年前に分岐したらしいです。その後オランウータンが分岐し五〇〇万年から一〇〇〇万年前ごろにゴリラ、チンパンジー、ボノボが分岐しました。

「サル」という時、私達はニホンザルもチンパンジーも含めていますが、系統的にいえば、ヒトとチンパンジーの違いは、チンパンジーとニホンザルの違いよりずっと小さいのです。直接の祖先ではないのですが、最も近い共通の祖先を持っているチンパンジーの社会や行動は、われわれヒトの社会や行動の進化を知る手がかりを与えてくれるはずなのです。

とここまで喋って暗く落ち込む。
病院の掃除婦達、いつの間にか動物園の掃除婦に変わっている。

ちよつと固いね。

うん、もつとユーモアっての？

そう、笑えるような、なんかエピソード入れるとか。

相手は小学生なんでしょ？

専門的過ぎるね、話が、もつと簡単でいいよ。

これ以上簡単にはできません。

なんで？「サルには種類がいろいろあります。ヒトに一番近いのはチンパンジー。先祖が同じなんですよ。チンパンジーを観察してみてください。」

これでいいじゃない。

……そうか……

それから、喋る時は客の目を見て話さない。独り言になっちゃうはそれじゃ。

うん、それと笑った方がいいね、怖いものなんか。

ハハハハ

いや、声出さなくていいよ、笑顔でってこと。

三人寝そべって、桜子の講演の練習に付き合っていてやっている。

A 桜子 B A C B A
C 桜子 C B 桜子

C B A 桜子

断ろう……やっぱ、私には無理だわ。
子供達楽しみにしてるんだろ？
大丈夫、ジローがいるんだから。前置きなんかなくてもねえ。
うん。

とマスクをした出田良子^{でた}ジローの手を引いて現れる。

出田

ごめんね、熱下がらなくて、人間嫌いの○○さんにこんなこと頼んじや
って。

ジロー桜子を見ると走って抱きつく。

桜子

やっぱり私やるるか。
いえ、本来は私がやるべきなんだから、ジローの担当は私なんだから元々
出田さんに代わって貰ったのは私だったんだから。
そっかあ、忘れてた。じゃあもう、早引きしていい？

出田 桜子

うん、あの、いつもどうやってるの？ちよっとやってみてくれる？

出田

うん。こんにちは、出田良子です。出田！出田！出田、出田、出田良子！
覚えてくれたかな？

はい、ジローちゃん、バナナ。一番前のあなた名前は？え？マサコちゃ

桜子

ん。はいこのバナナをジローちゃんに渡してみてください。そ、ね、すごいでしょ？ジローちゃんは自分でバナナがむけるんです。ゾウさんやキリンさんはバナナを皮ごと食べますね。でもジロー君は私達と同じようにきちんと皮をむきます。お利口ですね。はい。ジロー君と私達はそっくりなんです。ジロー君と私達は昔々はおんなじおサルさんから生まれたんですよ。で、ここで子供達が「えー！」と驚いて笑います。

出田

出たところ勝負だからだから。

桜子笑わない。

桜子

ここで子供達は笑うんだけど。

……

じゃ、お疲れ様でした。

と走りかけて、

誰が考えたのかね、こんな人間型ベンチ。

と三人の掃除婦を撫でて

どうせなら、妖精とか、ドラえもんとかの形にすれば可愛いのに。オバサンベンチなんてここだけだよ。

と去る。

ジロー、オバサンベンチと遊ぶ。

桜子

A

いいのよ、ジローが気に入ってるんだから。やってみ、今の、出たとこ勝負のやつ。

桜子

B

うん、こんにちは！○○桜子です。○○、○○、○○、○○、○○、なんかゴロが合わないね。

C

ダメだよ名前が違うんだから。別なの考えなきゃ。

桜子

バナナのとこからやりな。

A

はいジローちゃん、バナナ、一番前のあなた名前は？

桜子

ベンチ。

A

はい、このバナナをジローちゃんに渡してみて。

A

だめだよベンチなんだから。手なんか出ないよ。

ジロー横からバナナを取って、むいて食べる。

桜子

ねっすごいでしょ？ジローちゃんは自分でバナナがむけるんです。……

B

どうした？

桜子

C

なんかやだ。ジローを見世物みたいに……山形でお祭りの時見たへび女みたいに扱ってるみたいで……仕方ないよチンパンジーなんだから。

ジローはしゃぐ

桜子

やっぱり私できない。

と沈む。ジローはしゃいで桜子の機嫌をとる。桜子笑う。

ジローと桜子大いにはしゃぐ。

ベンチ達あきれる。

桜子

キキキツキキキツキキキ

(私やっぱりジローと一緒にが一番楽しい)

ジロー

キキキツキキキツキキキ

(僕も楽しい。桜子ちゃん大好き!)

桜子

キキククツクキキククキーキヤツキヤツ!

(私もよ。人間の男なんか最低! たった一人を除いてね)

ジロー

キヤツキヤツキヤツキヤツキヤツキーキー

(誰だよそいつ嫉妬しちゃうぞ)

桜子

キーキーキヤツ! キヤツ!

(秘密、教えてあげない)

ジロー

A

クークークー

(桜子ちゃんのいじわるう)

アホらしい。

桜子とジロー追いかけてっこをしているうち桜子はしやぎすぎてバナナの皮を踏んで転ぶ、ジローそれをかばって下敷きになると大風が吹いて三体のベンチがその二人の上におおいかぶさりジロー圧死してしまう。

バンドネオン奏者舞台上上がり演奏する。一人の尼僧が現れベンチをどけてやる。転がって消えるベンチ達。ジロー平らになっっている。尼僧は田川撫子だった。

田川

桜子さん、大丈夫？しっかりして。

桜子

……田川先生、どうしてここに？

田川

見に来たんですよ動物を。そしたらチンパンジーの檻の中にあなたが倒れているじゃありませんか。驚いて柵を乗り越えてしまいました。

桜子

いつ東京へ？

田川

三日前。変わりましたねえ東京は。都電もなくなって青山車庫に劇場が建ってました。昨日は横浜にも行ってきたんですよ。ゲーテ座、岩崎さんって方が建て直したんですってね。三十年で、思ったより長かったんだわ。

桜子

そのお姿は……

田川

桜子

田川

桜子

あの時〇〇修君を死なせてしまったでしょ？教員を辞めて教会へ。神様にお祈りするしかありませんでした。

えっ？

やだ忘れてしまったの？

……

とジローの死体に気が付く。

田川

ジロー……ジロー！

あら、チンパンジーがつぶれてる。

としやがんで十字を切る。

そして鎮魂歌を歌う。

桜子

田川

桜子

田川

桜子

田川

桜子

田川

先生、私も入信しようかな。
え？

……

あ、ペットロス？

ジローはペットじゃありません。私の半身です。

半身てあなた、いくら祖先は一緒といつても……

え？クリスマスチャンでも進化論をお信じで？

そりゃそうですよ。

田川 桜子

アダムとイヴは？
だから、アフリカのミトコンドリアのイヴですよ。

と懐中から水色のリボンを出す、そしてジローの小指に巻いてやる。

田川 桜子

それは？
今度生まれてきた時は人になって桜子さんとまた出会えるようにおまじないです。あなたの指にも巻いてあげましょう。

と桜子の小指に巻く。

田川 桜子
田川 桜子
田川 桜子

これは私の母が昔奉公していた時にその奥様からいただいたリボンです。人と人との心を繋ぐリボンだと母が生前言ってました。昨日、横浜でそのお屋敷を探してみましたが、大きなマンションが沢山建っていて、住所も地名も変わってました。
橘先生はお元気なんですか？
たちばな先生？
陸上部の顧問の……
……
先生おいくつになられました？
五十八ね。

桜子

田川

桜子

田川

桜子

ボケたか。

ああ、橘先生って、私が六中に赴任してくる前、あなた達の担任だった橘はじめ先生のこと？

え？

修学旅行とつても楽しみにしてましたんですってねえ。お気の毒に、心臓がお悪かったのに、駅伝競走で遅刻した生徒の代りに走ったんでしよう？心臓破りの峠で、ほんとに心臓が？山形市では未だに語りつがれている美談です。

・・・あの・・・

と突然劇場内が真っ暗になる。

騒然となる客席

観世、杉嶋、北原、しばらくつくのは待つが点かないのであわてる。どこかにぶつかったりして声をたてながら楽屋にひっこんで行く。

劇場係員の矢澤、ろうそくを持って登場しお詫びする。

係員

ブレーカーが落ちました。只今、ブレーカーがどこにあるのかみんなを探しておりますので、少々お待ち下さい。

客席の馬場ガマンできずに声をかける。

馬場 ちよつとあんた、劇場の係員が何でブレーカーの場所も知らないのよ。

係員 まさか落ちるとは思わないから。

馬場 ほんとブレーカーなの？いよいよ始まったんじゃないの？

係員 灯火統制じゃないのかい？どこだい防空ごうは？

馬場 あ、お客様、馬場さんじゃないですか？

係員 ちゃんと買ったよ、チケット持つてるよ。

馬場 良かった。これ、バック、お返しします。

係員 やっぱりあんたが盗ったんだね。

馬場 違います、洗面所にあつたんです。

馬場 ひつたくつてピアノの方へ行く。

馬場 また、弾いてよ歌うから。

薫 真つ暗で譜面が見えません。

馬場 ちえっ！

同潤会の住人たちろうそくを持って現われる。

中央にクロスのかかったテーブルが置いてある。

住人たちテーブルにろうそくを立ておのおのイスに座る。

潤一、春子の車イスを押している、リボンもいる。田川もいる。

平成十五年九月 同潤会アパート中庭

馬場、係員の矢澤に渡されたりうそくを持っていた。

すみれ
馬場

馬場さん、馬場さんもいらしてたんですわね。
当たり前だろ？自分の家だもの毎日帰ってくるんだよここに、このアパートに。

潤一

ありませんよもう。明日から工事が始まるんです。

春子

ちようどこの辺に海棠の木があった。この中庭にもクイが打ち込まれ、コンクリートに埋まってしまおう。

百合子

ほんとに最後ね。

桜子

最後のお茶会。

田川

何もこんな真夜中に集まらなくても。

潤一

立ち入り禁止ですから、昼間は目立ちます。それにひっきりなしに通る車の騒音がうるさくて。

桜子

暗い方がいいんです。暗い方が昔の中庭が見えるから。

馬場

何言ってるんだい。私は階段上がってあの部屋に帰るんだよ。あんた達には見えないのかい？あのベランダ、302号室の緑色のカーテン、ふくろうの彫り物のある手すり、ブーゲンビアの鉢植え鉢植。娯楽室のピアノ。共同浴場。壊れた三輪車。さびた物干し台。二階の森山さんちの赤ん坊が泣いてるよ。夜泣きがひどくて今日も眠れない。

潤一

掘っても掘っても母の死体は見つからなかった。出てきたのは小鳥の死がいと柴犬の骨、そして人形達。

馬場

・・・埋めとかないと、盗まれちゃうからね。

月光る

春子
一同

あ、月が出た。みんな帰ってくよ、月に向かう都電に乗って。
・・・

と月を見上げる。

リボン

あ、母さん・・・

春子

あたしももうすぐ行くさ。

馬場

みんな来てくれるんだろ？

一同

え？

馬場

あたしの個展、明日三越の八階で六時からだけど初日のパーティ来られる人いる？毎日徹夜してやっと仕上がった。

と白い紙袋を見せる。

潤一と桜子中を見る。

潤一

これは・・・

馬場

予約が多くて、王子様ばかり

馬場 桜子

馬場さん・・・
売れちゃう前に一体あげようか？へへへ

と紙袋からはしを取り出す。

お煮しめ、五目豆、へへへ

とつぶやき000人形に何か食べさせる仕草を繰り返している。

あたしの目は黒い だから白い鳥が黒く見える

あたしの幸せは だから 黒い色 へへへ

・・・・・・

四十年前、みんなでここに来たのよね。修学旅行で青山車庫に来て、通りから見えるここの海棠があんまり見事だったから、五人でこっそり入ったのよね。

五人で？

あなたと、上田さんと榎本さんと修君とで。

みんなで来たんでしょ？クラスのみんなで

そう、横浜に行った、前日？次の日だっけ？博君も雪夫君も直助君もみ

桜子
田川
すみれ
百合子

一同
田川

桜子

んないたわよね。

いつだったか、そこがぼんやりしてる、でもみんないたのは確かよ。しのぶも芙蓉もアザミちゃんも。

すみれ

サッコ雪夫君好きだったでしょう？

桜子

だって走るの速いし、正義感も強かったし。

すみれ

百合ちゃんは博君にあこがれてたでしょ？

百合子

みんな好きだったわよ博君は、無口だけど、知的で、いざという時は頼りになったもの。

桜子

すみれちゃんは？すみれちゃん、好きな子いたの？

すみれ

へへ直助君。母性本能くすぐられるタイプ。

桜子

初恋なのかねえ、あれが・・・。

すみれ

でもあの日、あれから何があつたのかどうしても思いだせない。

田川

何言ってるの？あなた達。

百合子

ええ？

田川

六中は　の五中と合併する前で、あの学年はあなた達と修君の四人しかいなかったじゃないの。六中最後の修学旅行で先生は私一人。東京も

三人

横浜も五人で回ったんじゃないの。

田川

。。。。。

三人

根岸の墓地で修くんがひきつけ起こして・・・私、急いで近くの病院を

三人

探したんだけど、戻ってきた時にはもう手遅れだった・・・

桜子

。。。。。

桜子

先生いくつ？

田川
桜子
田川

六十八ね。
ぼけたか。
写真もまだ取ってありますの。それを見ながら毎日お祈りしています。

リボン月を見ながら立ち上がる

すみれ
百合子
すみれ
桜子
リボン

．．．あなた．．．
え？
思い出した．．．あなた、あの時の．．．
あ．．．そのりぼん．．．
そろそろ帰らなくっちゃ．．．

と様子が変わっている
音楽

すみれ
百合子
桜子
三人

(歌う) もういいかい
(歌う) もういいかい
(歌う) もういいかい
何度も何度もためしてみる
もういいかい
聴こえてくるのは風の音
聴こえてくるのは波の声

すみれ 毎夜毎夜同じ夢を見て

百合子 窓をあけると満月が

桜子 あの日のようにふるえてる

潤一 潤一 (歌う) たそがれに紫の雲 走っていたら 海が見えた

汽笛が聞こえる ここはどこ 会いたい人はどこにいる

母さん 父さん お姉さん 会いたい人はどこにいる

赤いレンガの窓の中 月の光が眩しくて何も見えない

テーブルの下からフェリス女学院の制服を着た花絵が現れる

母さん・・・

花絵 (歌う) 会いたい時は毛布を抱いて短い毛足のぬくもりを

花絵・りぼん 花絵・りぼん 忘れないで 忘れないで 泣かないで 泣かないで

時夫現れる

時夫 会いたい時は 陽だまりに そっとほつぺた押し付けて

時夫・花絵 忘れないで 忘れないで 泣かないで 泣かないで

風の匂いに かげろうの先に 見つけて欲しい私の影

すみれ 時夫教えてちょうだい。あの日何があつたのか・・・

時夫 姉さん、みんな生きたかつたんだ。あの墓地に眠る子供達は育っていい

ば姉さん達と同年の子供達。
海棠の花散る日には子供達の夢が現実になるのさ。姉さん達は花の下で眠っていたじゃないか。僕は見たよ、子供達が姉さん達の夢をパイプにして新しい記憶をつむいでいくのを。

テーブルの中から、雪夫、博、直助現われる。
直助は猫を抱いている。

雪夫 (歌う) たそがれに 紫の雲 走っていたら 海が見えた
直助 (歌う) 汽笛が聞こえる ここはどこ 会いたい人は どこにいる
博 (歌う) 母さん 父さん お姉さん 会いたい人は どこにいる
少年三人 (歌う) 赤いレンガの窓の中 月の光が眩しくて 何も見えない
すみれ (歌う) 会いたいときは 毛布を抱いて 短い毛足のぬくもりを
少年三人 (歌う) 泣かないで 泣かないで 忘れないで 忘れないで
百合子 (歌う) 会いたいときは 陽だまりに そっとほつぺた押しつけて
少年三人 (歌う) 泣かないで 泣かないで 忘れないで 忘れないで
桜子 (歌う) 風の匂いに かげろうの先に 見つけて欲しい 私の影
少年三人 (歌う) 霧の中 声が聞こえる 抱きしめたいのに 指すり抜ける

方々から修学旅行生現われる。

生徒達 (歌う) ここはどこ その声の先に 何があるのか

その世界に行けるのだろうか
花は散る 散る 花は散る 時は過ぎて
新しい花が 星の命の果てるまで 繰り返し 咲き乱れ散る

全通路で歌う生徒達

舞台上で顔がほころんでいくすみれ、百合子、桜子
月を見上げている馬場、目を見開き生徒達を見ている田川
動かない春子

りぼん

そう、あの日僕は僕の眠りを現実に変えた。

君達だったのか 僕を目覚めさせたのは。

母はもういない・・・だから僕はもう帰らなくては。

潤一

りぼん

りぼんの胸のリボンがハラリと落ちる。

りぼん

ああ！
僕はもう何者でもなくなった。

と横たわって行く

雪夫

サッコ道に迷ったんだね、ずいぶん探したよ、手を離しちゃダメだって

桜子

言つたらうん！

と手をつなぐ。

博
百合子

まあいいさ、見つけたんだから、これも又時がたてば思い出になる。うん。

と手をつなぐ。

直助

すみれ

すみれちゃん、これあげるよ、ヘプバーンとおそろいのりぼん。昔、母ちゃんが子供の頃父ちゃんにもらったんだって。僕の宝物なんだ。うん。

と手をつなぐ。六人が手をつないでいる。

雪夫

行こう、みんな待ってる。

と通路に走って行く。

そして一同劇場の壁を取り囲んで立っている。
リボンの亡骸を抱いている潤一

馬場

満月だね、誠さん。

とテーブルから修現れる。

修

あれ？どこだここ。

田川

才、修君？

修

田川先生、みんなどこ行っちゃったんです？僕は一体どうしたんだろ
う？先生、僕、とても長い夢を見ていたような気がするんです。

田川

・・・

馬場

誠さん・・・

修

どうしたの？君何組？君も道に迷ったのかい？

馬場

うん、帰りたいのにお家が判らなくなっちゃった。

修

よし、僕と一緒に探してあげるよ、おいで。

と馬場の手を取り客席に向かう

僕も僕が気絶していた間の時間を早く取り戻したいんだ。

と客席の壁に立つ。

田川

あ、花びら・・・

潤一

根を切られ、えぐられた海棠の古木が最後の力をふりしぼって記憶の花

春子

びらを散らしている。これは海棠の古木が見ていた夢なんだろうか？死者達の記憶がにぎやかに僕に向かってくる。春子さん、僕は本当に、母の死体を探すためにここに来たのだろうか？

母の影は、いつも僕より先にいて、僕に生きることを強いたのじゃなかったか？誰からも祝福されない生命を抱えて生きるという絶望を母は教えてくれた。僕は僕が生きていることの意味が知りたかった。この時代に生きなければならぬことの理由を探りたかった。

春子さん、だから僕はここに来たんですよ、このリボンと僕はまるで双子の兄弟のよう、母のりぼんに縛られて、不器用にしか生きられなかった、でもそれでいいんです。トゲのように突きささるりぼんの記憶を持ったという時間がある。

と又吐きそうになる。そしてまたりぼんを吐き出す、その先端を花絵がつかみ通路まで伸ばして行く。
と春子目を開き、ゆっくりと車イスから立ちあがる。

母さん……

花絵がいたそでの通路から夏江が現われる。婚礼の日に出て行った時と同じ姿である。その後ろには黒沢がいる、夏江、さきほど花絵が持っていたりぼんの先端を握っている。春子は潤一が吐き出した方の先端を握っている。りぼんをピンと張ったままそれを

たぐるように夏江通路を歩いてくる。

夏江 春ちゃん、ただ今！

春子 あたし待ってました。待ってましたよ母さんを、ずいぶん遅かったじゃありませんか。

夏江 楽しいことは後までとっといた方がいいだろう？

春子 楽しいこと？

夏江 新しい時代で、春ちゃんと言いたいこと言い合って暮らすのが私の夢だったんだもの。

春子 新しい時代……

夏江 このりぼんの先にある自由な心。それを誰もが夢見られる新しい時代さ。今まで何してたんです？

春子 泳いでた。苦しいこと。楽しいこと。悲しいこと。嬉しいこと。春ちゃんと同じさ。泳いでいたんだ。これからは二人で泳ごう。

夏江 でもあたし、歳取っちゃった……

春子 何言ってるんだい、あれからたったの五十年だよ。男どもの悪口言いながら、泣いたり叫んだりどなったりしながらさ。そして恋をする。

春子 恋？

夏江 そう、いつかきつとそんな出会いがあるんじゃないかって思うんだよ。

春子 母さん、まだしてないの？

夏江 まだ九十八歳だもの、これからさ。

春子 そういえばあたしもしてないなあ……恋。泳ぐことに精一杯で。で

夏江

も、あたしたちどこで暮らすの？もう母さんの部屋はどこにもないのに。ハハハ、思い出してごらん？何度も何度も焼け野原になって、私達の部屋なんかいつだってなかったじゃないか、あってもいつも台所。私達は台所の流し台で本を読み、原稿を書いてきたのさ。

春子

ああ・・・そうだった。指先の千切れるぐらい冷たい川で釜を洗い、オシメを洗って朝方までぬいものしたつけ。自分のことはいつとも後回しにしてもなんともなかった。

夏江

だから行こうよ、帰るんじゃないよ、出かけるのさ。

と夏江りぼんをたぐりきり、春子の肩に手を置く。

春子

母さん、ありがとう、このりぼんをくれてありがとう

音楽 夏江歌う

夏江

(歌う)

涙の先に何がある 青いりぼんの赤いしみ

涙の色がにじんだ時に とんぼの羽がくつついた

夕焼け空に群がって 帰る古里探してる とんぼの羽がくつついた

帰りたいけど帰れない 私の古里どこにある

涙の先に海がある 青いりぼんの海がある

少女の胸の赤い血が こぼれて落ちた海がある

細い指先千の腕 泳ぎ疲れた海の底 眠る唇星の数
帰りたいけど帰れない
泳ぎ疲れて帰れない

夏江笑顔を残し消えて行く。

春子りぼんをにぎりしめて息絶える、

歌のコーラスをしながらすみれ、百合子、桜子舞台に戻ってきている。

馬場は客席に座っている。修は演奏者の中に立っている。

潤一

春子さん、春子さん

と車イスの春子のヒザに頭を乗せて眠る、そのそばに横たわるリボン、

ヒラヒラと花びらが舞う

田川、すみれ、百合子、桜子、春子を囲み恋の歌をアカペラで歌い始める。

すみれから歌い、百合子、桜子、田川と声は重なり一番を歌うと二番から劇場内の登場人物がそれに重なっていく、

劇場内は明るくなる、

二番から演奏も加わる、

馬場何か食べながら楽しそうにそれを見ている。

「恋の歌」

嗚呼歌え 恋歌を 明日は嬉しいことばかり

それなら昨日の憂鬱は昨日の川に捨てましょう

明日はいくつの朝が来て いくつの夜が終わるでしょう

戦ばかりが地を荒らし 人の命を枯らしたけれど

歌は残る 恋は残る 積もる心は乾かない

嗚呼歌え 恋歌を 明日は嬉しいことばかり

嗚呼歌え 恋歌を 明日は嬉しいことばかり

それなら昨日の憂鬱は昨日の川に捨てましょう

幾たびか街は焼かれ消え 愛しい人も焼かれ消え

花も子供も犬も溶け りぼんも溶けた昼もあるけど

歌は残る 恋は残る 積もる心は乾かない

嗚呼歌え 恋歌を 明日は嬉しいことばかり

歌終わりでブレーカーが落ちるように場内暗くなり演奏もとぎれる、そして満月が煌々と光る、

しばらくして明かりがつくと舞台上には誰もいない。

演奏者あらわれ、「待ちましょう」の演奏でカーテンコール。

終